

厚生労働省科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する
教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

令和 5 年度 総括・分担研究報告書

令和 6 (2024) 年 5 月

研究代表者 有賀 悦子

目次

I. 総括研究報告書

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究	1
	帝京大学医学部緩和医療学講座 有賀 悦子

- (資料1) PPI カリキュラム第2版
- (資料2) e-ラーニング動画一覧
- (資料3) ホームページ
- (資料4) 用語集
- (資料5) 研修会企画用リーフレット

II. 分担研究報告書

がん研究に患者・市民が参画するための教育カリキュラム作成とその効果検証および評価に関する研究	7
	群馬大学情報学部 片山 佳代子

- (資料6) 癌治療学会 意識調査

III. 研究成果の刊行に関する一覧表	10
---------------------	----

厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総括研究報告書

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する
教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

研究代表者 有賀悦子 帝京大学医学部緩和医療学講座 主任教授

研究要旨：患者・市民ががん研究に参画することを実現させるための効果的な教育方法の開発を目的として患者・市民に期待される能力・資質（コンピテンシー）、育成目標（アウトカム）をデルファイ法で明らかにし、体系的カリキュラムおよびそれに基づいた教育方法の開発を目的とする。自己学習可能な資材として、用語集、動画（Web ラーニング）のホームページ上での設置、対面研修会開催の準備を行った。さらに、カリキュラムの活用や登録の手順を解説した動画を作成した。また、日本癌治療学会会員に対する患者・市民参画の意識調査を行った。

研究分担者

江口英利

大阪大学大学院医学系研究科・消化器外科学 1
教授

勝俣範之

日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科 教授

三森功士

九州大学病院 教授

大滝純司

東京医科大学医学教育学分野 客員教授

渡邊清高

帝京大学医学部内科学講座（腫瘍内科）
教授

片山佳代子

群馬大学情報学部 准教授

片野田耕太

国立研究開発法人国立がん研究センター
がん対策研究所 部長

桜井なおみ

キャンサー・ソリューションズ株式会社
代表取締役社長

（Patient Engagement. P.3, 2016, WHO）でこれを患者・市民参画（Patient and Public Involvement）と呼んでいる。先駆的な英国や北米から、「がん研究」では参画者の多様性や公共的発言の重要性、研究初期からの参画の必要性がシステマティック・レビュー等で報告されている

（Hoffman, 2019）。国内では、医療の監査的役割や政策参加、AMED での研究への参画が広がってきたが、さらに推進していくためには、患者・市民への啓発が不可欠である。すでに、国内では多様な団体による研修会が開催されているが、個別に独立した開催のため体系化されておらず、効果的な教育の提供に至っていないことが指摘されてきた。その問題解決のために、学びの道しるべとなるカリキュラムを策定することが有効と考えられた。患者・市民参画は国際的には研究領域に期待されていることから、本開発研究は、がん研究に参画する患者・市民に求められる資質・能力（コンピテンシー）を明らかにし、それに基づく体系的カリキュラムの作成と教育方法の開発を目的とする。本報告書は、3年計画の2年目に相当する。

<各年度の目標>

1年目：

資質・能力を明らかにし、それに基づいた第1版カリキュラムの策定を行う。ホームページの基盤を構築する。

2年目：

第1版カリキュラムに対する患者体験者・市民からのフィードバックを受けた後、第2版を確定し、カリキュラムに基づく用語集の作成、自己学習を可能とする Web ラーニングの作成を行う。カリキュ

A. 研究目的

医療の質の向上には、患者や市民がともにパートナーとして医療に関与していくことが重要

ラムを活用した研修会の試行を行い、活用や登録の手順を解説した動画を作成する。

3年目：

さらに教育的効果が高い対面研修会の開催とカリキュラム評価を行う。Webラーニング受講者のアンケート結果を踏まえて、カリキュラムの最終調整を行う。

B. 研究方法

がん医療に関する患者支援プログラムを実施している日本癌治療学会(JSCO)、日本癌学会(JCA)、日本臨床腫瘍学会(JSMO)、全国がん患者団体連合会、この4団体から推薦を受けた研究者および医学教育、疫学、医学統計学の専門家を加え体制を継続した。

カリキュラム作成は研究班全体で、アンケート調査、デルファイ法を用いて第1版を開発し、患者体験者・市民によるフォーカスグループインタビュー(以下、FGI)による第1版のフィードバックを1年目に受けた。

2年目の取り組みについて以下に列挙する。

1. カリキュラム開発

FGIの結果を反映させたカリキュラム改定を実施し、カリキュラムの原則にとらわれない改定を行い、研究班全体会議にて第2版を確定した。

2. 基礎研修・自己学習資料開発

カリキュラム第2版に基づき、1年目から進めてきた用語集の調整後、監修を研究分担者および外部からの研究協力者で分担し、全用語について実施した。基礎研修ワーキンググループの会議にて、動画(Webラーニング)の内容、形式(座談会、レクチャー)の選択、講師の推薦をおこなった。提出された動画を、分担研究者3名による査読および、若手研究協力者(医療系学生)の内容のわかりやすさの確認と字幕の可否のチェックを受けたのち、ホームページで公開するという手順を取った。

3. 専門研修(対面研修)の開催準備

1) トライアル

カリキュラムを用いた対面研修会を試行し、参加

者の感想をカリキュラム活用方法に取り入れ、ホームページでの説明や動画作成(4.)に反映させた。様々な団体が研修会を開催できる体制を構築する。

2) 3学会患者支援プログラム

カリキュラム・コードを付与したプログラムの開催準備を行った。

3) 研究班主催対面研修会

3年目に開催するための準備を行った。

4. カリキュラム活用の普及

1) 動画作成

カリキュラムを活用した対面研修会がより開催されるようその手順を示した動画の作成を行った。

2) パンフレットの郵送

カリキュラムを用いた研修会開催について、パンフレットを作成し、その利活用可能な団体のリストを作成した。年度末前後の受け取りを考慮し、2年目の年度内と3年目の新年度持ち越しと分けて郵送を計画し、年度内分を実行した。

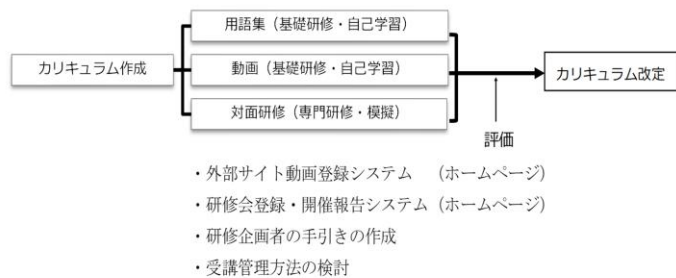
5. 評価について

1年目に引き続き、日本癌治療学会会員に対する患者・市民参画の意識調査を日本癌治療学会と共同で実施した。第2回日本癌治療学会会員に対する患者・市民参画の意識調査は同理事会7月に実施すること、およびロジックモデルに求められている数字を国に提出することについて、承認を受けた後、7月31日～8月22日まで回答期間とし、全会員に対しWeb調査を実施した。質問項目は2022年度第1回調査と同じものを用いた。10月開催された総会で調査結果を配布し、学術集会のシンポジウムで報告した。

また、次年度に向けたWebラーニングと対面研修に対する評価アンケートの実施準備を行った。実際には、Webラーニングは研究班専用サイト内で受講者が自分のペースで受講し、その後主観的な理解度、習熟度を5件法で回答することができるものとなっている。対面研修についても、受講後同様に実施する。

(倫理面への配慮)

今年度の研究の中で、1～4については倫理面の配慮が必要な内容を含んでいない。5. 日本癌治療学会会員に対する意識調査について、神奈川県立がんセンター研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。その他、個人情報の管理は厳重に行った。



C. 研究結果

1. カリキュラム開発

カリキュラム第1版に対し、市民からのパイロット評価にて、「難しい」印象を受けるという声が多かったため、1年目3月にフォーカスグループインタビューを実施した結果を受けて、2年目4月に改定作業を実施した。

コード領域は、参画、がん、研究、統計、EB (科学的根拠と情報)、EL (倫理、法規、制度) の6項目、さらにその下位項目として全13の資質・能力 (コンピテンシー) の数は変更しなかった。

改定は、カリキュラムに基本的に用いる動詞 (第3者が評価できるような動詞。例、説明できる。方法を示すことができる。) ではなく、易しく求めすぎない印象となる動詞 (知識を深めていくことができる。質問できる。理解する。体験しよう。知ろう。学ぶ。) に修正し、到達目標を能力の獲得から自己の充実に変更した。

また、カリキュラムに対応したモジュールを付記した。それによって、カリキュラムの意図がわかりやすくなり、また、平易な印象として示すことができた。例えば、「研究」は、「がん研究ってどんなこと?」。「がん医療の倫理、関連法規・制度」は、「がん医療・研究に関わる人が守らなければいけないこと、知っておきたいこと」に対応させた。

これら改定を第2版案とし、FGI参加者および研究班分担、協力者の合意に基づき、第2版確定とした。

2. 基礎研修・自己学習資材開発

1)用語集:1年目に抽出した用語の解説案を作成し、2年目に研究分担者および外部研究協力者によって監修を受けた後、ホームページに掲載した。また、サイト上での検索動作の確認と調整を行った。(450語)

2)動画 (Webラーニング) :基礎研修ワーキンググループにおいて、カリキュラム第2版に対応する自己学習を目的とした動画内容と講師の候補リストを作成した。座談会形式は、3本出席者のべ17人、講義形式は、20本講師17人に対し、依頼を行った。

座談会は12月に3本収録し、30分、49分、71分であった。長いのではないかという意見があったが、現段階では短縮せず、評価アンケートを見た後に必要に応じた修正を行うこととした。

講義は1本15分～30分程度とし、提出された動画は分担研究者による査読および監修を受けた。その後、研究協力者 (22歳、医療系学生) による平易さに関する査読と字幕の必要性のチェックを実施した。

全23本の内、査読・字幕付記済み掲載3本、掲載待ち12本、査読後修正待ち1本、査読中1本、提出待ち6本であった。(2024年3月末時点)

3. 専門研修 (対面研修) のトライアル

患者支援プログラムにおいて、開催企画者の了解を得て、カリキュラム・コードを付与したセッションを、通常2時間程度を要する内容の30分の短縮版で実施した。

患者・市民向けプログラム第28回日本緩和医療学会学術大会PALプログラム (患者・市民向けプログラム:2023年6月30日 (金) ランチョンセミナー、神戸) において、「患者・市民参画の模擬的な体験にチャレンジ:論文を根拠に社会活動に参画してみよう」というタイトルで、英文論文の構造と統計的有意差がある数字を見つけてみるなどを行い、カリキュラム・コードをメイン、サブに分け付与して対面研修をトライアルとして実施した。

その結果、カリキュラム・コードは少なくともスライド1枚以上の説明があること、一つのプログラムに複数のカリキュラム・コードが付与されていても混乱はないことが確認できた。メイン、サブと分ける方法は概ね良好に受け止められていたが、多くのコードが付与されていることでそれぞれに十分な解説が得られたという感覚が乏しい場合があった。

なお、英文論文、医療統計という言葉に、市民は難しいというイメージを持っていたが、トピックス的なチャレンジによって面白い、もう少し学んでみたいという感想を得た。概論・総論を学びることより、小さな部分を理解する方が負担なく興味を引き出せる可能性が示唆された。

2) 対面研修会開催準備

研究班主催対面研修会の開催準備を行った。2024年7月20日東京（AP東京）を予定している。

4. カリキュラムを用いた研修会開催の普及

1) 動画の掲載

カリキュラムを活用した対面研修会の開催方法、ホームページへの研修会登録方法の手順を示した動画（5.12分）の作成を行い、ホームページトップ画面に掲載した。

2) カリキュラムの利活用に関するパンフレットおよび団体リストの作成

患者・市民参画とは何か、第4期がん対策推進基本計画およびロジックモデルに盛り込まれたこと、カリキュラムの使い方、カリキュラムを活用した研修会の開催について、パンフレットを作成した。また、それを郵送するための利活用可能な団体のリストを作成した。47都道府県、都道府県および地域がん診療連携拠点病院（410件）、患者支援プログラムを設置しているがん関連学会（9件）、次世代がんプロフェSSIONAL養成プラン（以下、がんプロ）およびそれに準じる医科大学（82件）をリストアップし、全国がんプロ協議会前会長および現会長の送付承諾の手続きを行った。

それぞれの団体の担当者に郵送物が適切に届く時期を選び、発送を行った。

5. 評価について

1) がん研究者、医療従事者の意識調査

1年目に引き続き、日本癌治療学会会員に対する患者・市民参画の意識調査を日本癌治療学会と共同で実施し、1014名から回答を得ることができた。医療者からの意見を集計解析した結果、患者・市民参画という言葉に「知らなかった：45.4%から52.2%へ」、「言葉は知っている：聞いたことがある：31.3%から30.6%へ」、「言葉も意味もどのようなものか理解している：23.4%から17.3%へ」となった。昨年の調査よりも回答者が増加し、さまざまな診療科の医師の回答が増え、すそ野が広がったことでこのような結果となったと推測している。

2) 教育プログラムに関するアンケート

基礎研修（Webラーニング）、専門研修（対面研修）の評価アンケートに関する準備を行った。専門研修については、一部個人情報扱うため、群馬大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会にて審査、承認を得て実施する。

D. 考察

カリキュラムとは、学校の指導要綱に相当する。学びの道しるべ、学修のランニングコースとも呼ばれるが、これと時間割の違いを理解してもらうための努力が1年目の終わりから2年目にかけて必要であった。独立して個々が実施している市民向け対面研修会を体系化するためには、大変有用な手法であるが、これを社会で活用してもらうには、わかりやすさ、平易、簡単、取り組み易さがまず必要であった。そのため、カリキュラムの基本原則をどこまで応用させてよい（崩してよい）か、検討を要した。この作業は、想定以上に難渋した。

モジュールを付記したカリキュラム（指導要綱に時間割を併記した示し方）、能力・資質に求められるレベル、表現の修正によって、第2版の確定に至った。

カリキュラムのわかり辛さ以上に、一般市民にとって医学、特にがん研究はそもそも難解である。患者・市民参画を普及させるには、市民のための医療 - つまり、市民レベルに変換させなければいけない。

この開発研究は、「教育 - 体系化する手法の一般化」と「医学 - 特に、がん研究の市民視点への翻訳」という両面へのチャレンジが続いている。

一方で、がん研究プロジェクトに市民が実際に参画する場合、その市民は医学（研究者）の中に入っていくことになる。今後、市民と研究者の間の距離が近づき、研究者が患者・市民参画の場を作る力が求められるであろう。例えば、研究者が自身の研究について医学用語を最小限にして説明できること、参画した患者・市民が臆さず力が発揮できる場作りなどである。3年間の開発研究の2年目を遂行して、この二つの距離、壁を実感することがさらに増えた。患者・市民側への教育が課題の本研究の一方で、研究者側への支援・啓発のあり方の議論が求められていると考える。

E. 結論

カリキュラム第2版に基づく、基礎研修（用語集、動画（Webラーニング））プログラムのホームページ上の設置を進めた。専門研修（対面研修）プログラムの実施に向けたトライアルや開催方法についての動画作成を行った。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Toru Sugiyama, Noriyuki Katsumata, Takafumi Toita, Masako Ura, Ayaka Shimizu, Shuichi Kamijima, Daisuke Aoki. Incidence of fistula occurrence in patients with cervical cancer treated with bevacizumab: data from real-world clinical practice. *Int J Clin Oncol* 2022 Sep;27(9):1517-1528.
- 2) Mizuno M, Ito K, Nakai H, Kato H, Kamiura S, Ushijima K, Nagao S, Takano H, Okadome M, Takekuma M, Tokunaga H, Nagase S, Aoki D, Coleman RL, Nishimura Y, Ratajczak CK, Hashiba H, Xiong H, Katsumata N, Enomoto T, Okamoto A. Veliparib with frontline chemotherapy and as maintenance in Japanese women with ovarian cancer: a subanalysis of

efficacy, safety, and antiemetic use in the phase 3 VELIA trial. *Int J Clin Oncol*. 2023 Jan;28(1):163-174.

2. 学会発表

- 1) 有賀悦子. 患者・市民参画の模擬的な体験にチャレンジ：論文を根拠に社会活動に参画してみよう。がん医療・ケアにおける Patient and Public Involvement（患者市民参画）を PAL 目線ですらに深めよう。第 28 回日本緩和医療学会学術大会，神戸，6 月，2023 年
- 2) 有賀悦子. 患者・市民と共にがん研究を推進していくための患者・市民向け教育カリキュラム開発。がん医療・ケアにおける Patient and Public Involvement（患者市民参画）。第 28 回日本緩和医療学会学術大会，神戸，6 月，2023 年
- 3) 有賀悦子. がんサポーターケアにおける PPI（患者・市民参画）の現状と展望。第 8 回日本がんサポーターケア学会学術集会。奈良，6 月，2023 年
- 4) 有賀悦子. よりよいがん疼痛緩和を目指してーいのちの長さにも関わっている痛みの治療にいついて、オピオイドの選択からケミカルコーピングまでー。広島赤十字・原爆病院令和 5 年度がん診療に関わる地域医療連携研修会（Web 開催），6 月 15 日，2023 年
- 5) 有賀悦子. ACP（Advance Care Planning）とがん診療。第 61 回日本癌治療学会特別企画シンポジウム（司会），横浜，10 月，2023 年
- 6) 有賀悦子. 貼付鎮痛剤の EBM。日本ペインクリニック学会 57 回学術集会ランチョンセミナー（座長），佐賀，7 月，2023 年
- 7) 有賀悦子. Advanced cancers and supportive care. The 3rd International Congress of Asian Oncology Society (chair,) 横浜，10 月，2023
- 8) 有賀悦子. JSCO 会員に取り組みで欲しいこと:カリキュラムを活用した患者・市民向け研

- 修会開催 . 社会連携・PAL 委員会企画シンポジウム, 第 61 回日本癌治療学会, 横浜, 10 月, 2023 年
- 9) 辻 喬繁(徳洲会湘南鎌倉総合病院 乳腺外科), 田中 久美子, 若森 洋子, 勝俣 範之 頸部、腋窩、傍大動脈リンパ節転移を呈した原発不明がんに対し化学療法で著効した 1 例(会議録/英語) 日本癌治療学会学術集会抄録集 60 回 Page P71-6(2022.10)
 - 10) 勝俣範之 第 26 回日本病院総合診療医学会学術総会「不明熱の診断」於：ライトキューブ 宇都宮 2023.2.18
 - 11) 大滝純司 医学科入学者選抜における教育格差対策の光と影 第 55 回日本医学教育学会大会 (長崎) シンポジウム 15 「医学科入学者選抜の光と影：トピックスと課題」 2023 年 7 月 29 日
 - 12) 渡邊清高, 西森久和, 佐々木治一郎, 藤也寸志, 境健爾, 吉田稔, 矢野篤次郎, 岡本禎晃, 木川幸一, 片渕秀隆, がんのチームケアと地域連携を推進する教育プログラムの実践と評価 日本癌治療学会学術集会抄録集 61 回 O32-1 2023 年 10 月
 - 13) 渡邊清高, がん検診における Shared Decision Making (共同意思決定) に向けた情報提供のあり方 第 82 回日本公衆衛生学会総会
 - 14) 渡邊清高, 原発事故・コロナで見られた未知なる不安への対応 「未知なる不安」をどう受け止め、どう伝えるか メディアドクター研究会での議論から ヘルスコミュニケーションウィークプログラム・抄録集 2023 40-40 2023 年 9 月
 - 15) 北澤京子, 秋山美紀, 大野智, 小竹朝子, 佐藤正恵, 高野聡, 前村聡, 増田英明, 丸木一成, 三井貴子, 渡邊清高, プレスリリース版メディアドクター指標(B 版)の開発 ヘルスコミュニケーションウィークプログラム・抄録集 2023 122-122 2023 年 9 月
 - 16) 渡邊清高, 佐藤正恵, 北澤京子, 大野智, 安村誠司, 未知のリスクにおけるコミュニケーション 原発事故に伴う低線量被ばくと処理水に関する報道についてのメディアドクター指標を用いた分析 ヘルスコミュニケーションウィークプログラム・抄録集 2023 151-151 2023 年 9 月
 - 17) 佐藤正恵, 北澤京子, 渡邊清高, メディアドクター・ワークショップ「プレスリリース」と「報道記事」の読み比べ がん治療の副作用をどう伝えるか 医学情報サービス研究大会抄録集 38 回 50-50 2023 年 7 月
 - 18) 渡邊清高, 西森久和, 大野真司, 岡本禎晃, 桜井なおみ, 篠崎勝則, 新小田雄一, 辻晃仁, 松井優子, 安本和生, がんのチームケアと地域連携を推進する教育プログラムにおけるコアコンピテンシーの提案 日本がんサポーターケア学会学術集会プログラム・抄録集 8th 2023 年
 - 19) 渡邊清高, 医師からみたがん支持医療認定制度への期待と提案 日本がんサポーターケア学会学術集会プログラム・抄録集 8th 2023 年
 - 20) 渡邊清高, 国内における PPI (患者・市民参画) の現状 日本がんサポーターケア学会学術集会プログラム・抄録集 8th 2023 年
 - 21) 渡邊清高, 高齢者機能評価の重要性 MASCC/JASCC/ISOO 2023 Annual Meeting 2023 年

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん研究に患者・市民が参画するための教育カリキュラム第2版の評価と対面研修プログラムの開発

研究分担者

●片山佳代子 群馬大学情報学部 准教授 / 神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん教育ユニット長

【研究要旨】：がん研究における患者・市民参画を推進するために、研究班で開発した教育カリキュラム第2版の評価方法とその準備を行った。患者・市民参画は、患者サイドと医療者サイドの両輪で成り立つものであるため、昨年に引き続き医療者の患者・市民参画の認知度を含めた動向調査を実施した。その結果は、昨年と比較し、患者・市民参画という言葉が「知らなかった：45.4%から52.2%へ」「言葉も意味もどのようなものか理解している：23.4%から17.3%へ」と一見認知度が下がる数値であったが、回答者数や回答診療科が増える等の要因があった。内閣府の調査でも国民の認知度は2%と非常に低い結果であり、さらなる情報発信や広報が必要であることが分かった。

研究班では専用サイトを開発し、コンテンツの充実を図り、情報発信を進めており、患者・市民とともに教育カリキュラム第2版のコードを付与した初めての対面研修会の企画、プログラム開発を行った。

A. 研究目的

本研究班で開発した①患者・市民ががん研究に参画するための教育カリキュラム第2版の評価方法ならびに実際の評価実施について検討すること、また両輪となる②医療者側の患者・市民参画に対する動向を継続調査し、日本における患者・市民参画の推進のための資料を作成すること、そして③研究班が主催する初めての対面研修会を企画し、研修プログラム（専門研修）の事例を作ることを目的とした。

B. 研究方法

① 教育カリキュラム第2版の評価

評価方法については昨年度に実施した先行研究レビュー結果を参考に、主観的な習熟度を測るアンケート調査を開発した。教育カリキュラムは6領域のカリキュラムコードから成る。研究班専用サイト内で公開される教育動画を受講した対象者がサイト内で評価する方法となっている。受講環境が整い次第、プレ調査として全がん連理事（4名）と全がん連から推薦された患者団体の長（6名）に依頼し、プレ調査を実施する予定である。その後、本調査評価については、プレ調査で調査項目の整合性を確認し、最終調整した内容で各コードのコンピテンシーに関する理解度（習熟度）を5件法で評価し、同時に各コードについて自由記述で回答を求める。集計は、各コードをスコア化する。

サンプルサイズ計算：A-Hのコードの平均点を比較（一元配置分散分析効果量0.25、 α エラー0.05、検定力0.3）する場合240名の受講数で解析する予定である。

② 医療者意識動向調査

昨年に引き続き日本癌治療学会会員（医療者対象）にアンケート調査を実施し、継続的な医療者側の動向を把握した（7月31日～8月22日web調査を実施）。

③ 対面研修（専門研修）企画とその評価

開発した教育カリキュラムコードを使った研修会を企画した。実際には、患者委員と綿密な打ち合わせを実施、対面研修WGメンバーを中心にプログラム案を作成した。対面研修会の評価については、受講者と企画側の両方からアンケート調査を実施し、データを得る予定である。

本研究班の①ならびに③の評価については、3年間という短い研究期間内でプログラム開発と評価を同時に実施している点を鑑み、定量的評価よりも定性的評価で図るを得ないことから患者・市民からの質的評価を重視する予定を進めることを評価WGで共有した。

（倫理面への配慮）

①については、教育プログラムの開発が目的のため人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に必ずしも該当しない旨、神奈川県立がんセンターのIRBから回答を得ている。

②について同センターの研究倫理審査を受け承認された上で実施し、③については群馬大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会に申請し、承認を得た後実施予定である。

C. 研究結果

①については、専用サイト内に評価に関する設定を構築した。受講環境が整い次第、プレ調査、本

調査と進めていく予定である。

②について：医療者からの意見を集計解析した結果、1014名から回答を得ることができた。PPI(患者・市民参画)という言葉を知らなかった：45.4%から52.2%へ、「言葉は知っている：聞いたことがある：31.3%から30.6%へ」、「言葉も意味もどのようなものか理解している：23.4%から17.3%へ」となった。昨年の調査よりも回答者が増加し、さまざまな診療科の医師の回答が増え、すそ野が広がったことでこのような結果となったと推測している。自由記述を年比較したところ、2022年は「個人」、「市民」という単語が大きく、2023年は「意見」、「医療」という単語が目立つ結果であった。

③については、2024年7月20日に都内の会場において第1回対面研修会を開催する。研修会タイトルは『みんなで創る！がん研究のための患者・市民参画研修会(第1回)』と決定した。班員だけではなく、全がん連の協力のもと、患者(家族)のファシリテーターが受講者を支援する形で参画する予定である。

D. 考察

令和5年度内閣府で実施した世論調査で「患者・市民参画」について知っていたか聞いたところ、「内容も含め知っている」と答えた者の割合が2.0%、「言葉だけは知っている」と答えた者の割合が13.6%、「知らない」と答えた者の割合が83.9%となったと報告された(令和5年7月調査)。都市規模別、性別に大きな差異は見られていないとのことだが、年齢別に見ると、「言葉だけは知っている」と答えた者の割合は70歳以上で、「知らない」と答えた者の割合は18~29歳、30歳代で、それぞれ高くなったと報告されている。こうした一般市民の動向を鑑みると、本研究班で実施している医療者の動向調査結果は、昨年よりも認知度が下がったとは言え、妥当な結果と捉えている。

まだまだ認知度が低い結果であるが、本研究班の活動を通して広く「患者・市民参画」という取り組みや文化が日本に根付いていくよう情報発信を続けることが重要である。

E. 結論

本研究班専用サイト内で第2版カリキュラムコードに基づく動画研修ツールや、対面研修会についての準備、企画が進んだ。教育プログラム開発と同時に評価も実施するという時間的制約の中で最適な評価方法を検討した。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

・片山佳代子. がん研究に求められる患者・市民参画と教育プログラムの開発：レギュラトリーサイエンスからみた新しい人材育成. 臨床評価. 51 巻 3号,374-378, 2024.

・Suketomo YH, Katayama K, Ogihara A, Sato AM. Process of developing a cervical cancer education program for female university students in a Health and Physical Education teacher training course: an action research. BMC Womens Health, 2023; 3(1):1692023.

・Ebara Y, Nagasaka K, Sakaguchi M, Ueda N and Katayama K. A study on analysis on poster's emotion on SNS for supporting female cancer in COVID-19 pandemic. Artificial Life and Robotics (ISAROB)2023; 1100-1104.

・Hase R, Suzuki D, DE Luise C, Chen H, E, Higuchi T, Katayama K, Kinjo M, Jinno S, Morishima T, Sugiyama N, Tanaka Y, Setoguchi S. Validity of claims-based diagnoses for infectious diseases common among immunocompromised patients in Japan. BMC Infectious Diseases. 23, Article number: 653 (2023).

2. 学会発表

・片山佳代子、石川大介、上田暢子. 女性がんピアサポートSNS[Peer Ring]の投稿から探るがんアンメットメディールニーズの可視化. 第33回日本疫学会学術総(浜松) 2023年2月

・菅悠史, 阪口昌彦, 川相一郎, 岸田徹, 佐藤美紀子, 野田真由美, 長谷川一男, 浅野健人, 片山佳代子. 本邦のIRB所属委員の立場の多様性の探索. 臨床試験学会 第14回学術集会(金沢, 2023年2月)

・片山佳代子. 第一生命株式会社太田支社 社員研修会講師 「子宮頸がんを学ぶ」
2023年5月

・片山佳代子. 「がん医療・ケアにおける Patient and Public Involvement(PPI:患者市民参画)『がん研究における PPI 推進の医療者のニーズ・課題について』」. 第28回日本緩和医療学会学術大会パネルディスカッション1.
2023年6月(神戸)

・江原 康生,長野 瑞樹,阪口 昌彦、上田 暢子,片山 佳代子. 女性がん相互支援 SNS における投稿者の感情変化に関する視覚的分析. 第51回可視化情報シンポジウム (小樽) 2023年8月

・川相一郎、桜井なおみ、鈴木牧子、古谷佐和子、前田留里、山田富美子、伊藤ゆり、片山佳代子. 全がん連サバイバーシップニーズ調査報告「私たちが考える“がんサバイバーシップ”」. 第36回日本サイコオンコロジー学会総会、2023年10月 (オンライン)

・片山佳代子. 「本邦で患者市民参画は普及したか？」座長：宮川義隆 (埼玉医科大学)、片山佳代子 (群馬大学), 第61回日本癌治療学会学術集会 (横浜) 領域横断シンポジウム. 2023年10月

・片山佳代子. 第61回日本癌治療学会学術集会 (横浜) 社会連携・PAL委員会シンポジウムシンポジスト. テーマ「がん医療をささえる基盤に JSCO はどう関われるのか」演題：『2022 年、23 年 JSCO 医療者アンケート調査等から見えてきたこと』2023年10月 (横浜)

・片山佳代子. 「本邦で患者市民参画は普及したか？」第 61 回日本癌治療学会学術集会 (横浜) 領域横断シンポジウム座長. 2023 年 10 月

・片山佳代子. 「レギュラトリーサイエンス・オープンサイエンスからみたデータサイエンス：その基本原理と人材育成」研究集会シンポジスト「がん研究に求められる患者・市民参画と教育プログラムの開発:レギュラトリーサイエンスからみた新しい人材育成」2023 年 11 月 (群馬大学)

・片山佳代子. トークカフェ at PLUS+アンカー：サイエンスカフェ in 桐生④依頼講演 「誤解の多いがんについて～正しい情報最前線～」(桐生市) 2023 年 10 月

・片山佳代子. 大阪市健康局 子宮頸がん予防セミナー (市民公開講座:企画運営) 2023 年 11 月 18 日、大阪 (天王寺区)

・片山佳代子. 子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～大阪市健康局 子宮頸がん予防セミナー (市民公開講座:企画運営) 2023 年 11 月 18 日、大阪 (城東区) 子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～

・片山佳代子. 子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～大阪市健康局 子宮頸がん予防セミナー (市民公開講座:企画運営) 2023 年 11 月 18 日、大阪 (北区) 子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～

・片山佳代子. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 公募型シンポジウム 51「第 2 回全国自治体調査結果と自治体支援について」2023 年 11 月 (つくば市)

・片山佳代子. 群馬県がん教育外部講師講演「がんについて学ぼう」沼田市薄根小学校 6 年生とその保護者に向けて. 2023 年 11 月

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
渡邊清高	健康と医療情報を吟味する「メディアドクター指標」	佐藤正恵, 北澤京子, 渡邊清高, 大野智 (担当:共著)	はじめての医学系情報 さがす・読む・伝える	日本医学出版	東京	2023	
片山佳代子	Cancer Education in Schools and Communities 学校や地域で『がん』を学ぶワケ	片山佳代子	R5 年度群馬大学地域貢献事業	特急印刷株	群馬県前橋市	令和5年度	全16頁
片山佳代子 監修. 編集	練馬区がん患者等ニーズ調査 結果報告書	株式会社 リサ・サーナ	監修者のことば: 練馬区がん患者等ニーズ調査 結果報告書	発行 練馬区健康部健康推進課	東京都練馬区.	令和5年3月	全82頁

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
有賀悦子	JSCO会員に取り組んで欲しいこと:カリキュラムを活用した患者・市民向け研修会開催. がん医療をささえる基盤にJSCOはどう関われるのか. 社会連携・PAL委員会企画シンポジウム.	第61回日本癌治療学会学術集会. e-抄録			2023
有賀悦子	多様な PPI 研修会を繋ぐ-体系的カリキュラム作成を通じて. がんサポーターケアにおけるPPI(患者・市民参画) の現状と展望.	第8回日本がんサポーターケア学会学術集会. e-抄録			2023
有賀悦子	患者・市民と共にがん研究を推進していくための患者・市民向け教育カリキュラム開発. がん医療・ケアにおけるPatient and Public Involvement (PPI: 患者市民参画) .	Palliative Care Research.	18(Supl)	S91-92	2023
有賀悦子	患者・市民参画の模擬的な体験にチャレンジ:論文を根拠に社会活動に参画してみよう. がん医療・ケアにおけるPatient and Public Involvement (患者市民参画) をPAL目線でさらに深めよう.	Palliative Care Research.	18(Supl)	S178	2023
有賀悦子	患者・市民参画を実現するための教育カリキュラム・プログラム開発. シンポジウム:がん研究における患者・市民参画の実現に向けて:3学会共同プロジェクトへつなぐ.	日本癌治療学会学術集会抄録アーカイブサイト			2023

勝俣範之	がん患者の障害年金	緩和ケア	Vol.33 no.2	117-121	2023
勝俣範之	抗がん剤のやめ時とアドバイス・ケア・プランニング	ホスピスケア	34巻 第1号	33-53	2023
勝俣範之	【原因不明で経過する発熱,不明熱患者のみかた】悪性新生物 悪性新生物を疑った場合の診察(問診・身体所見)とスクリーニング検査 この熱,がん(腫瘍熱)が原因かも?(解説)	診断と治療 (0370-999X)) 111巻 8号	1085-1088	2023
勝俣範之	【外来での訴訟高リスク疾患20】見逃されやすい腫瘍性疾患 がん患者でも問診と身体所見が大切 患者の訴えに耳を傾けることは最重要事項!(解説)	jmed mook	86号	125-131	2023
勝俣範之	がんもどき理論のもたらしたもの(解説)	腫瘍内科 (1881-6568)	31巻5号	609-613	2023
Hiroshi Tsuge, Daisuke Kawakita, Yukari Taniyama, Isao Oze, Yuriko N Koyanagi, Megumi Hori, Kayo Nakata, Hiro mi Sugiyama, Isao Miyashiro, Izumi Oki, Yoshikazu Nishino, Kota Katanoda, Yuri Ito, Akiko Shibata, Tomohiro Matsuda, Shinichi Iwasaki, Keitaro Matsuo, Hidemi Ito	Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study	Cancer Sci.	115(2)	623-634	2024
Kiyotaka Watanabe, Nobuhiko Seki	Biology and Development of DNA-Targeted Drugs, Focusing on Synthetic Lethality, DNA Repair, and Epigenetic Modifications for Cancer	A Review International Journal of Molecular Sciences			2024
Kiichiro Ninomiya, Daisuke Inoue, Ken Sugimoto, Chie Tanaka, Keiko Murofushi, Toru Okuyama, Shigeaki Watanuki, Chiyo K Imamura, Daisuke Sakai, Naomi Sakurai, Kiyotaka Watanabe, Kazuo Tamura, Toshiaki Saeki, Hiroshi Ishiguro	Significance of the comprehensive geriatric assessment in the administration of chemotherapy to older adults with cancer	Journal of geriatric oncology	14(5)	101485-101485	2023
片山佳代子	がん研究に求められる患者・市民参加と教育プログラムの開発:レギュラトリーサイエンスからみた新しい人材育成	臨床評価	51巻 3号, 2	374-378	2024

Suketomo YH, <u>Katayama K</u> , Ogihara, Sato AM.	Process of developing a cervical cancer education program for female university students in a Health and Physical Education teacher training course: action research.	BMC Womens Health,	3(1):169	doi: 10.1186/s12905-023-02273-8.	2023
Ebara Y, Nagasaka K, Sakaguchi M, Ueda N and <u>Katayama K</u> .	A study on analysis on poster's emotion on SNS for supporting female cancer in COVID-19 pandemic.	Artificial Life and Robotics (ISAROB)		1100-1104.	2023
Hase R, Suzuki D, DE Luise C, Chen H, E, Higuchi T, <u>Katayama K</u> , Kinjo M, S, Morishima T, Sugiyama N, Tanaka Y, Setoguchi S.	Validity of claims-based diagnoses for infectious diseases common among immunocompromised patients in Japan.	BMC Infectious Diseases.	23, Article number: 653	Published: 03 October 2023	2023

令和4年 厚生労働省科学研究費がん対策推進総合研究

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究班(22EA1001)

モジュール				カリキュラム		
タイトル (pre-start)	目標	タイトル (start up)	目標	領域 (2語)	カリキュラム・コード	資質・能力(コンピテンシー)
患者・市民参画 ことはじめ	“患者・市民参画”を初めて聞く市民に向けたモジュールです。興味をもつきっかけ作りが目標です。カリキュラムはどれを適応させても構いません。	患者・市民参画するには (患者・市民参画概論)	患者・市民参画に取り組んでみたいという思いを高め、入り口に立つことを目指します。 (さらに進んだ目標として、研究チームや会議体に参画し意見交換ができる)	参画	参画-1 興味	患者・市民参画のモチベーションを高める。
					参画-2 参画チャレンジと意見交換	患者・市民の参画にチャレンジし、建設的な意見交換ができる。
		がんを知ろう (腫瘍学・社会医学)	がんについて、自らのペースで知識を深めていきましょう。	がん	がん-1 腫瘍学	がん(腫瘍学)について、自らのペースで知識を深めていくことができる。
					がん-2 社会医学	がんに関する社会医学について、自らのペースで知識を深めていくことができる。
		がん研究ってどんなこと? (がん研究概論)	がん研究について、自分のペースで知識を深めていきましょう。	研究	研究-1 なぜ研究が必要なのか	なぜ研究が必要なのか? 研究という営みについて理解する。
					研究-2 アウトラインと計画	研究を遂行するための研究構造(アウトライン)を理解し、研究計画がどのように立案されるのかを理解する。
					研究-3 研究方法とデザイン	研究方法とデザインについて質問できる。
		研究-4 データ管理と公表	研究データ安全管理と研究成果の公表と活用について理解する。			
医療統計に触れてみよう。 なぜ、必要? (医療統計・疫学)	身近な文章(ニュースや報告書)やがん研究論文で、医療統計や疫学が、どのように用いられているか体験してみましょう。	統計	統計-1 統計用語	医療統計の言葉に触れる体験をしよう。		
科学的根拠が社会で活用されるまで (科学的根拠と医療情報)	がん研究が、医療や社会の中の意思決定にどのように活用されているか学びます。	EB	EB-1 科学的根拠(EBM)とガイドライン	がん研究で得られた科学的根拠がガイドライン等を通してどのように意思決定に用いられるか知ろう。		
			EB-2 情報リテラシー	確かな情報を見分けよう。 情報リテラシーの重要性を知ろう。		
がん医療・研究に関わる人が守らなければならないこと、知っておきたいこと (がん医療に関する倫理・法規・制度)	医療や研究に関わる人が守らなければならない事柄として、倫理、利益相反、法規、制度について学びます。	EL	EL-1 がん医療の倫理	医療倫理・研究倫理、利益相反、個人情報保護について学ぶ。		
			EL-2 がん医療の関連法規・制度	その時代の最新のものを学ぶ。 がん対策基本法、薬機法、がん登録推進法、健康保険法(診療報酬、保険適応内外)、介護保険法、臨床研究法、倫理指針、健康増進法、労働安全衛生法、公的医療保険制度、高額医療費制度、患者申出医療制度等		

令和4年 厚生労働省科学研究費がん対策推進総合研究

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究班(22EA1001)

カリキュラム			研修企画者の手引き		
領域 (2語)	カリキュラム・コード	資質・能力(コンピテンシー)	「知識」 動画、書籍(推薦図書)、用語集などを用いて、自己学習ができる。	「実践」 対面研修による模擬的または事例検討等を通して、どう行かかを考えられる。研究者の支援を受けながら研究に参画することができる。	「上級」
参画	参画-1 興味	患者・市民参画のモチベーションを高める。	<ul style="list-style-type: none"> 患者・市民参画の様々な取り組みについての語りの動画を視聴する。 患者・市民の役割について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者・市民の視点の必要性や役割について議論できる。 	
	参画-2 参画チャレンジと意見交換	患者・市民の参画にチャレンジし、建設的な意見交換ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 患者・市民参画とは何か概説できる。 みんなが守ることを列挙できる。 (発言マナー、時間を守る、適切なメンバーに報告・相談を行う、研究内容の守秘など) コミュニケーション・スキルについて 	<ul style="list-style-type: none"> 会議体全員が取り組むこととして実践できる。 公益的役割を実践できる。 守る事柄を実践できる。 会議の検討課題を理解し、時間内に議論が終えるよう共働できる。 事前に資料を読み、意見を準備しておくことができる。 他者を尊重し、自らの意見をわかりやすく積極的に述べることができる。 	
がん	がん-1 腫瘍学	がん(腫瘍学)について、自らのペースで知識を深めていくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己学習が可能なレベルで取り組む。 <p>日本癌治療学会「大人のがん講座」 https://www.jSCO.or.jp/cancerseminar/</p>	<ul style="list-style-type: none"> がん研究に関連する腫瘍学や社会医学の特定の領域について講義を受講し、知識を説明できる。 <p>(講義例) がん予防と検診 癌腫別の講義 希少がんとは・高齢者とがん・AYA世代とがん ザバイパーシブ 医療とお金(医療の質と経済性の検討は社会的課題解決に重要であることの解説) 治療と仕事・学校の両立支援はなぜ大切?</p>	<ul style="list-style-type: none"> 腫瘍学やがんに関する社会医学のその時の最新または専門的な知見を得て、議論や提案に生かすことができる。 <p>(講義例) がんとゲノム 遺伝子異常とバイオマーカー 腫瘍免疫と免疫関連薬剤 放射線治療・粒子線治療の作用メカニズム プレシジョンメディスン ドラッグラグ・デバイスラグ</p>
	がん-2 社会医学	がんに関する社会医学について、自らのペースで知識を深めていくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己学習が可能なレベルで取り組む。 		
研究	研究-1 なぜ研究が必要なのか	なぜ研究が必要なのか? 研究という営みについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> なぜ研究が必要なのかを学び、がん研究の意義を理解する。 FINER(優れた研究テーマに必要な条件)について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ研究が必要なのかを踏まえ、社会の役に立っている様々な研究について理解する。 	
	研究-2 アウトラインと計画	研究を遂行するための研究構造(アウトライン)を理解し、研究計画がどのように立案されるのかを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 研究のアウトラインを理解できる。 PICO/PECOを理解できる。 研究計画書、研究倫理委員会審査、研究費獲得文書、文献レビューにでてくる用語を調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画書を踏まえて研究目的を抽出し、その研究のゴールについて議論できる。 研究チームの構成について説明できる。 模擬的な研究計画書を用いて議論ができる。 研究協力者と分担者の違い、謝金と必要経費の違いを理解する。 	
	研究-3 研究方法とデザイン	研究方法とデザインについて質問できる。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研究、臨床研究(治験・臨床試験)、観察研究を理解する。 代表的な研究方法を理解する。 研究デザインの代表的なものを列挙できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究論文や研究事例がどのような研究方法、デザインを用いているか、抽出し、疑問に感じたことを質問できる。 	
	研究-4 データ管理と公表	研究データ安全管理と研究成果の公表と活用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 研究結果に関連する用語について調べ、結果を理解することができる。 研究で使ったデータをどう保管するのか(保管しなければならないか)を学び、安全管理という仕組みを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究は何等かの形で社会へ還元される必要があり、学会発表から論文化までの成果物の公表方法について学び、どのようなルールがあるのかを習得する。 模擬または実際にいずれかの方法を実践する。 (例 学会の患者支援プログラムでポスター発表する) 啓発時に留意すべき法規等を列挙できる。 	

統計	統計-1 統計用語	医療統計の言葉に触れる体験をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> 医療統計の言葉に触れる体験をしよう。(医療統計や疫学に関する用語を調べることができる) 	<ul style="list-style-type: none"> 医療統計を用いた箇所がどこか示すことができる。 医療統計を用いた文章の例を挙げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> データ解析や統計手法がどのように結果を導き出していくかを体験し、結果を理解することができる。 研究論文や行政報告書などにおいて、データ解析の手法や統計的な用語を理解し、結果や考察について議論できる。
EB	EB-1 科学的根拠 (EBM) とガイドライン	がん研究で得られた科学的根拠がガイドライン等を通してどのように意思決定に用いられるか知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> 科学的根拠(EBM)の用語の説明。 ガイドラインの目的、臨床疑問、推奨などの構造を知る。 臨床現場でのガイドライン活用例を知る。 	研修例事例を用いて、 <ul style="list-style-type: none"> 推奨のレベルが決まってくるプロセスを体験する。 EBMが意思決定に用いられるプロセスを体験する。 意思決定や社会的決断にEBMが用いられた事例を通して議論する。 	
	EB-2 情報リテラシー	確かな情報を見分けよう。情報リテラシーの重要性を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> 情報の確からしさを高める方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット (PC, スマホ等) や図書を用いた医療情報の検索を体験する。(PubMedなど) 	
EL	EL-1 がん医療の倫理	医療倫理・研究倫理、利益相反、個人情報保護について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 医療倫理・研究倫理・インフォーム・ド・コンセントの説明 (要点を列挙できる) 被検者 (臨床研究) や動物 (基礎研究) の保護、被検者の利益、不利益について説明 (要点を列挙できる) 医療安全や意見の衝突への対応が重要であることを概説できる。 利益相反、個人情報保護の基本的な事項について要点を列挙できる。 	<ul style="list-style-type: none"> がん研究の過去事例、模擬事例を通して、どのように適応されているか、問題 (研究不正含む) にはどのようなことがあるか、列挙することができる。 基本的な事項を踏まえて議論できる。 	
	EL-2 がん医療の関連法規・制度	その時代の最新のものを学ぶ。がん対策基本法、薬機法、がん登録推進法、健康保険法 (診療報酬、保険適応内外)、介護保険法、臨床研究法、倫理指針、健康増進法、労働安全衛生法、公的医療保険制度、高額医療費制度、患者申出医療制度等	<ul style="list-style-type: none"> 法規や制度について、自分で調べる方法を述べることができる。 法規や制度について、策定に至った簡単な背景や要点を学び、要約できる。 	<ul style="list-style-type: none"> がん医療を取り巻く事例を通してどのように適応されているか例や問題点を挙げ、議論できる。 	

e-ラーニング動画一覧

カリキュラムコード	到達目標	e-ラーニングの概要 (WGで作成した構成案)	演者・登壇者	所属	2024年3月末
参画-1 興味	患者・市民参画のモチベーションを高める。	患者・市民参画の様々な取り組みについての語りの動画を通して、患者・市民の役割について理解する。 【座談会形式】	司会：渡邊清高先生 登壇者：有賀悦子先生 桜井なおみ氏 (発言順)	帝京大学医学部内科学講座 病院教授 帝京大学医学部緩和医療学講座 教授 キャンサーソリューションズ株式会社 代表取締役社長	公開済み
参画-2 参画チャレンジと 意見交換	患者・市民の参画にチャレンジし、建設的な意見交換ができる。	参画にあたり守ること（発言マナー、時間を守る、適切なメンバーに報告・相談を行う、研究内容の守秘など）。コミュニケーションスキルの重要性。 【座談会形式】	司会：渡邊清高先生 登壇者：有賀悦子先生 桜井なおみ氏 天野慎介氏 樋口麻衣子氏 片野田耕太先生 片山佳代子先生 (発言順)	帝京大学医学部内科学講座 病院教授 帝京大学医学部緩和医療学講座 教授 キャンサーソリューションズ株式会社 代表取締役社長 全国がん患者団体連合会 理事長 AYAがんの医療と支援のあり方研究会 理事 国立がん研究センターがん対策研究所 部長 群馬大学情報学部 准教授	公開済み
がん-1 腫瘍学	がん（腫瘍学）について、自らのペースで知識を深めていくことができる	がんについて知識を深める（診断・治療・主な研究・トピックス） 【講義形式】	【肺がん】 佐々木治一郎先生	北里大学医学部 新世紀医療開発センター 教授	提出待ち
			【乳がん】 佐治重衡先生	福島県立医科大学医学部 腫瘍内科学講座 主任教授	準備中
			【胃がん】 寺島雅典先生	静岡県立静岡がんセンター 副院長	準備中
			【希少がん】 川井章先生	国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長	準備中
			【高齢者とがん】 田村和夫先生	福岡大学 名誉教授	準備中
			【AYA世代とがん】 清水千佳子先生	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 がん総合診療センター センター長	準備中
がん-2 社会医学	がんに関する社会医学について、自らのペースで知識を深めていくことができる。	がんに関する社会医学について知識を深める（予防・検診・サバイバーシップなど） 【講義形式】	【がん予防】 井上真奈美先生	国立がん研究センター がん対策研究所 副所長	準備中
			【がん検診】 中山富雄先生	国立がん研究センター がん対策研究所検診研究部 部長	準備中
			【サバイバーシップ】 高橋部先生	NPO法人日本がんが「バ・ツア」ネットワーク 代表理事	準備中
			【がんと社会】 後藤勸先生	慶応義塾大学大学院 経営管理研究科 教授	提出待ち
研究-1 なぜ研究が必要なのか	なぜ研究が必要なのか？ 研究という営みについて理解する。	研究の進捗により、医療がどう変わるか。具体的な事例（治療開発・支持医療・社会学的研究・サバイバーシップなど） 【座談会形式】	司会：有賀悦子先生 登壇者：渡邊清高先生 片山佳代子先生 桜井なおみ氏 天野慎介氏 樋口麻衣子氏 片野田耕太先生 (発言順)	帝京大学医学部緩和医療学講座 教授 帝京大学医学部内科学講座 病院教授 群馬大学情報学部 准教授 キャンサーソリューションズ株式会社 代表取締役社長 全国がん患者団体連合会 理事長 AYAがんの医療と支援のあり方研究会 理事 国立がん研究センターがん対策研究所 部長	公開済み
			研究-2 アウトラインと計画	研究を遂行するための研究構造（アウトライン）を理解し、研究計画がどのように立案されるのかを理解する。	治療開発フェーズの目的と課題、ブルーオプコンセンツのタイミング、立案に要する費用総額など、デジタル医療機器やプログラム承認と薬剤との違い 研究計画書の構成 【講義形式】
研究-3 研究方法とデザイン	研究方法とデザインについて質問できる。	観察研究（社会医学研究）、代表的な研究方法・研究計画・PICO/PECOなどの解説、レイサマリー ・研究計画書、研究倫理委員会審査文書、研究費獲得文書などでと登場する主な用語の解説 【講義形式】	【研究計画書の見方】 片山佳代子先生	群馬大学 情報学部 准教授	準備中
			【治療開発の実際】 佐々木治一郎先生	北里大学医学部 新世紀医療開発センター 教授	提出待ち
研究-4 データ管理と公表	研究データ安全管理と研究成果の公表と活用について理解する	・研究データの管理、成果の公表と活用、レイサマリー ・守秘義務や個人情報保護への対応など 【講義形式】	佐野裕亮先生	国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門	準備中
統計-1 統計用語	医療統計の言葉に触れる体験をしよう。	実際の論文や研究をモデルに統計用語を解説していただくとありがたいです。 バイアス、有意差、オッズ比/リスク比/ハザード比など 【講義形式】	柴田大朗先生	国立がん研究センター 研究支援センター 生物統計部長	準備中
EB-1 科学的根拠と ガイドライン	がん研究で得られた科学的根拠がガイドライン等を通してどのように意思決定に用いられるか知ろう。	科学的根拠(EBM)の用語説明、ガイドラインの目的、臨床疑問、推奨などの構造 ガイドライン作成への患者市民参画 臨床現場でのガイドライン活用例など 【講義形式】	片野田耕太先生	国立がん研究センター がん対策研究所 部長	準備中
EB-2 情報リテラシー	確かな情報を見分けよう。 情報リテラシーの重要性を知ろう。	情報の確からしさを高める方法、臨床試験情報の探し方や教育研修の紹介 主な論文の種類 【講義形式】	渡邊清高先生	帝京大学医学部内科学講座 教授	準備中
EL-1 がん医療の倫理	医療倫理・研究倫理、利益相反、個人情報保護について学ぶ。	医療倫理・研究倫理・インフォームドコンセントの説明 被検者（臨床研究）や動物（基礎研究）の保護、被検者の利益、不利益 利益相反、個人情報保護の基本的な事項など 【講義形式】	田代志門先生	東北大学大学院文学研究科 総合人間学専攻 社会人間学講座 准教授	準備中
EL-2 がん医療の関連法規	その時代の最新のものを学ぶ。 がん対策基本法、薬機法、がん登録推進法、健康保険法（診療報酬、保険適応内外）、介護保険法、臨床研究法、倫理指針、健康増進法、労働安全衛生法、公的医療保険制度、高額医療費制度、患者申出医療制度等	主にごがん研究（研究開発/社会学的研究）に関連した解説、ゲノム医療法・個人情報保護法など	松田智大先生	国立がん研究センター がん対策研究所 国際政策研究部 部長	準備中

準備中：査読後校了し、公開準備中（字幕、最終確認）

※理解度確認クイズとプログラム評価アンケートは、動画公開辞意同時公開

研究班ホームページ トップページ

がん研究
患者・市民参画 マナビの広場

患者・市民参画と広場ができるまで このサイトでできること 研究班について 受講者向け一覧 研修企画者はこちら

がん研究に参画しよう！

【研修会企画者向け】カリキュラムを基...
**カリキュラムを基にした
研修会開催方法**
～カリキュラム・コードのつけ方と
開催報告の手順について説明します～

研修会
登録は
こちら

見る YouTube

がん研究
患者・市民参画 マナビの広場

患者・市民参画と広場ができるまで このサイトでできること 研究班について 受講者向け一覧 研修企画者はこちら

せいかく
厚生労働省科学研究費補助金による研究班が作りましました
だから、より正しい知識を学ぶことができます

こうか的
どの範囲の何を学ばよいか、学びの道しるべをカリキュラムといいます。
カリキュラムに基づいているので、計画的・効果的に学べます。

きがるに
ID・パスワードの登録はいりません。

研修会
登録は
こちら

がん研究
患者・市民参画 マナビの広場

患者・市民参画と広場ができるまで このサイトでできること 研究班について 受講者向け一覧 研修企画者はこちら

がん研究に参画しよう！

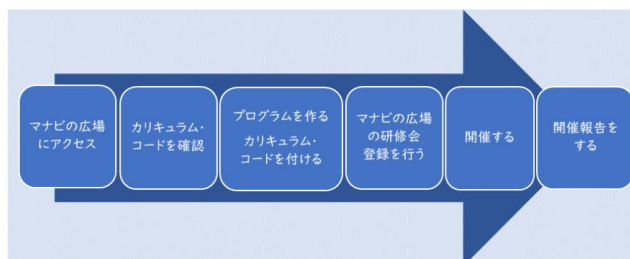
研修会
登録は
こちら



カリキュラムに基づいた研修会を開催する

カリキュラム・コードを活用した研修会を開催することは、患者・市民参画の啓発、普及の一助となります。ご協力をお願いいたします。団体等個別情報は除き、研修会開催数や参加者数の総和は年次報告として公表していく予定です。研修会の開催後、**開催報告**をお願いします。

手順



[カリキュラム・コードの確認はこちら](#)

[カリキュラムの紹介へ >>](#)

[プログラムを作るとき参考になる資料](#)

[研修企画者の手引きへ >>](#)

カリキュラム・コードのつけ方

1. プログラムに適合するカリキュラム・コードを選択します。
2. プログラムにカリキュラム・コードを記載してください。
 - ① カリキュラム・コード
 - ② 次の文章とQRコード

例を参考にして、プログラムに以下を記載してください。

厚生労働省科学研究で開発された患者・市民参画カリキュラムに
基づいた研修会です。詳しく知りたい方はQRコードへ



プログラム例：

○年度○○病院 がん診療連携拠点病院市民セミナー

多くの市民の皆様に参加を病前一案お待ちしております。

日 時：○年11月23日 13:00～15:00
開催形式：対面研修会
テーマ：『肺がんと信頼できる医療情報』

～ プログラム ～

開会の辞：○○病院長

特別講演① 13:05～13:35

『肺がんの診断と治療』 研修会プログラムF がん-1

演者：○○科 ○○ 先生

特別講演② 13:35～14:05

『信頼できる医療情報の見分け方』 研修会プログラムF EB-2

演者：○○科 ○○ 先生

特別講演③ 14:10～14:55

『患者さん向け肺がんガイドラインを読んでみよう』 研修会プログラムF EB-1, 2

演者：○○科 ○○ 先生

閉会の辞：○○副院長

◎ 本セミナーは、厚生労働省科学研究で開発された患者・市民参画カリキュラムに基づいた研修会です。詳しく知りたい方はQRコードへ

主催：○○病院 協賛：○○医療会

・研修会登録は以下より

・開催報告はこちら >>

研修会登録

以下のフォームから開催予定の研修会を申請してください。

※申請いただいた研修会は内容を確認の上、疑義が生じた場合確認のためご連絡差し上げることがございます。

研修会の内容によっては掲載できない場合がございます。ご了承ください。

研修会登録

以下のフォームから開催予定の研修会を申請してください。

※申請いただいた研修会は内容を確認の上、疑義が生じた場合確認のためご連絡差し上げることがございます。

研修会の内容によっては掲載できない場合がございます。ご了承ください。

連絡窓口担当者

担当者メールアドレス *

※申請される方の氏名及び連絡先は申請内容の確認以外の目的で使用することはありません

開催団体 *

(例) 第○回 日本○○学会学術集会

団体種別 *

選択

研修会等の名称 *

(例) 患者アドボケートプログラム

企画の内容 *

Georgia 段落 B I

200文字以内（改行含む）

開催日 *

開催日 2

他の日にも開催する場合は入力してください

開催日 3

他の日にも開催する場合は入力してください

総研修時間 *

- 1 時間未満
- 1 ～ 3 時間未満
- 3 ～ 8 時間未満
- 8 時間以上

開催方法 *

選択してください ▼

参加費 *

選択してください ▼

募集人数

対象者

選択 ▼

プログラム（モジュール）数 *

(例) 講義60分、シンポジウム90分の場合、2本のため「2」と入力してください。(プログラム数を入力して

メインコード *

- 参画-1 興味
- 参画-2 参画チャレンジと意見交換
- がん-1 腫瘍学
- がん-2 社会医学
- 研究-1 なぜ研究が必要なのか
- 研究-2 アウトラインと計画
- 研究-3 研究方法とデザイン
- 研究-4 データ管理と公表
- 統計-1 統計用語
- EB-1 科学的根拠（EBM）とガイドライン
- EB-2 情報リテラシー
- EL-1 がん医療の倫理
- EL-2 がん医療の関連法規・制度

難易度

- Pre-Start ことはじめ
- Start-up 自己学習～研修会参加レベル
- Advance 上級レベル

教育技法 *

- グループワーク
- 模擬的研修
- 討論
- 講義
- その他

研修目標の到達確認

- ミニクイズ（ミニテスト）
- アンケート
- 発表
- その他

サムネイル

 画像をアップロード

記事の上部に表示されます（推奨画像サイズ：横幅770px、縦幅440px）

研修会の案内 *

- チラシやパンフレット
- WEBページURL

研修会について案内する媒体を登録してください

申請する

社会の動きでみる患者・市民参画

日本では、がん対策について
「がん患者を含めた国民が協力して、取組を進めていくことが必要」で、
「多様な患者・市民が参画できる仕組みの整備」と
「患者・市民参画に係る啓発・育成の推進」が大切だと述べています。
(厚生労働省 がん対策推進基本計画（第4期））

患者・市民参画のキーワード



研修会
登録は
こちら



患者・市民とともに

そのために必要なこと



仕組みの整備



啓発・育成の推進

研修会
登録は
こちら

このサイトの目的

患者・市民の皆様が、がん医療・研究の参画の募集があった時、
手をあげてみよう、参画してみたいと
思ってもらえることを育むことにあります。

そのために、身につけるとよい能力・資質を整理し、
体系的に目標をまとめたものがカリキュラムです。

患者・市民参画をもっと知る

研修会
登録は
こちら

患者・市民参画6つの学習テーマ

患者・市民参画のための学習内容は、6つのテーマに分かれています。

興味のあるテーマをクリックしてみてください！



研修会
登録は
こちら



医療統計に触れてみよう
なぜ、必要？

科学的根拠が社会で
活用されるまで

がん医療・研究に関わる人が
守らなければいけないこと
知っておきたいこと

6つの学習テーマのカリキュラム

カリキュラムは、学びのランニングコースです。

受講者は、6つのテーマのどれから始めてみるか、どのような道を走っていくか、計画を立ててみましょう。

研修会
登録は
こちら

カリキュラムの紹介

難しさも選択



研修会
登録は
こちら

Pre-Start

マナビの入り口
ことはじめ

Start-up

自己学習（知識の獲得）レベル
研修会（実践的）レベル

Advance

上級レベル

学習に活用できるメニュー



サイトの使い方



Webラーニング



用語集



外部学習コンテンツ



研修会

研修会
登録は
こちら

お知らせ

外部学習コンテンツ 研修会

2023.09.20 **研修会** 第28回日本緩和医療学会学術大会PALランチョンセミナー1「患者・市民参画模範的...

2023.08.28 **外部学習コンテンツ** 大人のがん講座

研修会
登録は
こちら



がん研究
患者・市民参画マナビの広場



研修会
登録は
こちら

カリキュラムの紹介



がん研究への患者・市民が参画を実現するための 教育カリキュラム

カリキュラムは、ラテン語の「走る」(currere)を語源とした言葉で、ランニングコースのことを指します。

がん研究に参画していく自信を得て頂くまでの道程に必要な要素を示したものが患者・市民参画教育カリキュラムです。

モジュール

モジュールは学校の時間割、カリキュラムは学習要綱に相当しています。

令和4年 厚生労働省医科学研究費助成がん研究推進拠点研究
がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する参画カリキュラムプログラムの開発に関する研究費(22CA1001)

学習内容 (学習目標)	単元 (学習内容)	時間 (学習時間)	担当 (担当)	学習内容 (学習目標)	単元 (学習内容)	時間 (学習時間)	担当 (担当)
がん研究 への参画 マナビ	1. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	2. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	3. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	4. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	5. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	6. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	7. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	8. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	9. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	10. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	11. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	12. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	13. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	14. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	15. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	16. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	17. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	18. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一
	19. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	20. がん研究への参画の意義と役割	15分	山本 浩一	山本 浩一

(クリックでPDFファイルが開きます)

カリキュラム活用手引き

カリキュラムをさらに、研修企画者の手引きと照らし合わせた表です。

自己学習で取り組めるレベルと対面研修のレベル、さらにもっと上級者向けのレベルを一部のカリキュラムに例として挙げています。

中央社会 障害労働者科学技術者人材育成推進機構
本人研修(1) 研修 研修参加者による自己学習 本表に示す研修者レベルとカリキュラムの関係を調べる研究表 (22EA1001)

研修 区分	研修 名称	研修 内容	研修参加者レベル		
			研修 参加者 レベル	研修 参加者 レベル	研修 参加者 レベル
研修 区分	研修1 研修 参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習
	研修2 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習
	研修3 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習
研修 区分	研修4 対面研修	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習
	研修5 対面研修	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習
	研修6 対面研修	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習
研修 区分	研修7 対面研修	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習
	研修8 対面研修	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習
	研修9 対面研修	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習

受講記録管理

受講記録を記入できるシートです。

カリキュラムは受講される方がご自身で計画を立てて受けていってください。すべてを受けなければいけないわけはありません。

中央社会 障害労働者科学技術者人材育成推進機構
本人研修(1) 研修 研修参加者による自己学習 本表に示す研修者レベルとカリキュラムの関係を調べる研究表 (22EA1001)

研修 区分	研修 名称	研修 内容	受講記録					
			研修 参加者 レベル	研修 参加者 レベル	研修 参加者 レベル	研修 参加者 レベル	研修 参加者 レベル	研修 参加者 レベル
研修 区分	研修1 研修 参加者による自己学習	研修参加者による自己学習						
	研修2 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習						
	研修3 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習						
研修 区分	研修4 対面研修	研修参加者による自己学習						
	研修5 対面研修	研修参加者による自己学習						
	研修6 対面研修	研修参加者による自己学習						
研修 区分	研修7 対面研修	研修参加者による自己学習						
	研修8 対面研修	研修参加者による自己学習						
	研修9 対面研修	研修参加者による自己学習						

① 患者・市民参画と広場ができるまで



患者・市民参画はPatient and Public Involvement(PPI)の日本語訳です。

国際的にはその他、Public Involvement (PI)、Patient Engagement (PE)、Patient and Public Involvement Engagement (PPIE) などを用いることもあり、用語が統一されていない状況にあります。

患者・市民参画(PPI)の取り組みに歴史のある英国では、

Patient and Public Involvement (PPI) means actively working in partnership with patients and members of the public to plan, manage, design and carry out research. It is "Research being carried out 'with' or 'by' members of the public rather than 'to', 'about' or 'for' them"

(National Institute for Health Research (NIHR), UK)

「患者・市民参画(PPI)とは、患者や市民と共に計画、管理、デザイン、研究の遂行をパートナーとして実行していくことを意味する。市民のためではなく、市民とともに、市民によって実施される。」

国内の先駆的取り組みの団体であるPPI-Japanでは

「患者やその家族、市民の方々の経験や知見・想いを積極的に将来の治療やケアの研究開発、医療の運営などのために活かしていこうとする取り組み」(PPI-Japan ホームページより抜粋)

と、説明しています。

つまり・・・

一つの事柄の“計画の最初”から“普及啓発”までの長い期間において、医療者や専門家に患者・市民がパートナーとして加わることを参画と言い、参加より密接な関係を指します。



Participation (参加) 医療者が意見を聴き反映させたり終了後結果や知識を社会と共有する等の部分的関わりから、ガバナンス、優先順位設定、研究等における協力関係として Involvementと同義に使用されることもある。

平成30年（2018年）のがん対策推進基本計画ではがん研究に以下のように述べられています。

がん対策推進基本計画（平成30年(2018年)3月 閣議決定）

4. (1) がん研究

(現状・課題) P.69

治験、臨床試験に関する計画立案の段階から、**研修を受けた患者**が参画することによって、患者視点のアウトカムの提案や、患者のリクルートの適正化等をより高い精度で進めていくことの必要性が指摘されている。

(取り組むべき施策) P.70

国は、**患者の声を取り入れながら、がん罹患後の社会生活に関する研究や、中長期的な後遺症に対する診療ガイドラインを作成するための研究など、患者と**

パートナーシップ研究を推進する。

国は、治験をはじめとした臨床研究の情報を医療従事者や国民にわかりやすく提供するとともに、関係団体等と連携し、治療開発を一層推進する。

AMEDは、海外の研究体制と同様、我が国でも患者やがん経験者が研究のデザインや評価に参画できる体制を構築するため、平成30(2018)年度より、患者及びがん経験者の参画によって、がん研究を推進するための取組を開始する。また、**国は、研究の計画立案と評価に参画可能な患者を教育するためのプログラムの策定を開始する。** (<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000196975.pdf>)

**AMED(青字)：患者らが研究に参画できる体制を構築
国(赤字)：参画可能な患者を教育するプログラムを策定**

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究班 (22EA1001)

国内では、様々なところで研修が行われるようになりました。

ところが、どのような人材を育成すればよいかという議論がなかったため、それぞれの団体がその興味があるテーマで研修を開催しています。それでは、効果的な研修にならないことから、私たちは、がん医療、特に、研究などに患者・市民が参画することができるよう体系的カリキュラムを作成することにしました。これによって、多様な研修が繋

がるようになることを目指しています。

PPIに関する教育研修の問題とその対策方略

PPI：患者・市民参画

患者・市民 → 医療・参画を学ぶ必要

医療者 → 共働を学ぶ必要
(パートナーシップ)

患者・市民に対する研修の場

- ・ PPI専門性の高い団体（がん・非がん）
PPI Japan
- ・ 医療者の患者支援団体のプログラム
キャンサーネットジャパン
- ・ 学術団体の学術集会等におけるプログラム
日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会
日本肺癌学会、日本サイコロジコロジー学会
日本サポートティブケア学会、日本緩和医療学会
- ・ 患者団体によるプログラム
全国がん患者団体連合会
ヘルスケア関連団体ネットワークの会 (VHO-net)
さきさきあい医療人材センター (COMI)

・ どのような人材であれば、がん研究に参画できるのか描かれたものがない

↓
求められるコンピテンシー（能力）の明確化

・ それぞれの団体がその時の話題でプログラムを構成している。

↓
体系的カリキュラムの必要性

・ 様々な団体による研修

↓
研修の多様性の尊重と質の維持

・ 一つ一つの研修の質が不明

↓
**研修プログラムの評価
研修方法の評価**

・ 研修を受けたものの活用路が不確定
(研究者と患者・市民をマッチングするシステムがない)

令和5年(2023年)には第4期がん対策推進基本計画の中で、基盤領域の一つとして、初めて「患者・市民参画の推進」が盛り込まれました。参画できる仕組み(体制整備*)と啓発・育成(教育*)の二つの目標は変わらず、領域についてはがん研究*から一步展開し、国や都道府県の協議会等行政会議への参画の推進が含まれています。さらに、医療従事者、関係学会にも理解を求めています。

*第3期がん対策推進基本計画での記述

第4期がん対策推進基本計画(令和5年(2023年)3月 閣議決定)

4. これらを支える基盤整備 (p.59)

(5) 患者・市民参画の推進

(現状・課題)

国民本位のがん対策を推進するためには、国や地方公共団体と、患者団体等の関係団体

やがん患者を含めた国民が協力して、取組を進めていくことが必要である。また、その際には、多様な患者・市民が参画できる仕組みを整備するとともに、患者・市民参画に係る啓発・育成も併せて推進することが必要である。

(取り組むべき施策)

国及び都道府県は、国民本位のがん対策を推進するため、基本計画及び「都道府県がん対策推進計画」の策定過程について、性別、世代、がん種等を考慮し、多様ながん患者等のがん対策推進協議会及び都道府県協議会等への参画を推進する。また、諸外国の公募制、代表制等の事例も踏まえつつ、患者・市民参画の更なる推進に向けた仕組みを検討する。

国は、これまでがん研究分野で推進されてきた、がん患者及びがん経験者の参画の取組に係る知見について、患者・市民参画に関する研究成果も踏まえ、各分野への横展開を行う。

国は、患者・市民参画を推進するに当たって、参画する患者・市民への啓発・育成を行う。また、医療従事者や関係学会に対しても、患者・市民参画に係る十分な理解がえられるよう、啓発等に取り組む。

- 国 (緑):がん研究分野の患者・市民参画とその横展開
- 国・地方(青):多様な患者らのがん対策の協議会への参画とその体制整備
- 国 (赤):参画する患者らへの啓発・育成、医療従事者や関係学会への啓発

このマナビの広場は、患者・市民参画の目標の一つ、啓発・育成を進めていくために作られました。

② このサイトでできること



「がん研究 患者・市民参画マナビの広場」は、みなさんががん研究のことを知ったり、学んだりできるように、と生まれたサイトです。興味のあるコンテンツを見たり、用語集を学習に役立てたりするのも良いでしょう。このサイトでがん研究について学び、市民、患者の目線を大切にする日本のがん医療を応援していきましょう。

受講者の方

患者・市民参画とは

患者・市民参画について

1. Webラーニングで学ぶ。

Webラーニングへ >>

2. がん研究の用語を調べる。

用語集へ >>

3. 学べる外部サイトを調べる。

外部学習コンテンツへ >>

4. どのようなカリキュラムに基づいた研修会が予定されているか調べる。

研修会一覧へ >>

5. 今まで受講したことがないカリキュラム・コードで開催する研修会を探す。

研修会の検索画面へ >>

6. もっと強化したい（興味がある）カリキュラム・コードで開催する研修会を探す。

研修会一覧へ >>

カリキュラム一覧へ >>

7. 自分が学んだことを記録する。（受講管理）

受講記録管理へ >>

研修会を企画する方へ

1. 最近、開催予定の他の研修会の内容や傾向を知る。

研修会一覧へ >>

2. カリキュラム・コードを参照して研修会を企画する。

[カリキュラム一覧へ >>](#)

3. カリキュラム・コードを活用した研修会を登録する。

[研修会登録へ >>](#)

4. 研修会開催報告をする。(実績)

[開催報告へ >>](#)

外部学習コンテンツ（動画等）でカリキュラム・コードを活用してくださる方へ（外部学習コンテンツ企画者）

現在公募していません

外部学習コンテンツ



がん研究
患者・市民参画マナビの広場

カリキュラムを活用した外部学習コンテンツ一覧

外部サイト上でカリキュラム・コードを付けて公開されている、がん研究について学ぶことができる動画や資料を確認することができます。

[外部学習コンテンツを確認する](#)

自身が公開している学習コンテンツ（動画等）の登録申請

自身のホームページ等で公開している学習コンテンツにこのサイトで紹介しているカリキュラムコードを活用するための登録申請を行うことができます。



外部学習コンテンツで患者・市民参画カリキュラム・コードを活用して くださる方へ (外部学習コンテンツ企画者)

カリキュラムとは

患者・市民ががん医療等に参画していくための学びは、近年、多様化しています。これを効果的に結び付けるために、能力・資質を整理し、体系的に学習目標を構成したものを**カリキュラム**と呼んでいます。



カリキュラム・コードを付けることのメリット

患者・市民の方々が、貴サイトで学習した際に、それが体系的カリキュラムのどれに相当するか知ることができます。それによって、受講者は、学習計画を立てたり、自分の受けた講義の管理を行いやすくなります。

登録できる外部学習コンテンツ：研究班研究者等から推薦を受けたもの

内容：患者・市民ががん等の医療に参画していくための自己学習が可能な難易度のもの

[外部学習コンテンツを確認する](#)

手順



手順

- 貴サイトに適応されるカリキュラム・コードを選択してください。
(カリキュラム一覧はこちら)
- 以下の申請フォームから申請します。
- 申請後、担当者が内容を確認の上、バナーとURLについて連絡いたします。お送りしたバナー及びURLを貴サイトに掲載し、本サイトにアクセスできるよう設定をお願いいたします。
- バナーをクリックして本サイトの外部サイト一覧に飛ぶことをご確認ください。

サイト管理者又は団体名

連絡窓口担当者



担当者メールアドレス*

※申請される方の氏名及び連絡先は申請内容の確認以外の目的で使用することはありません

団体名*

ページのタイトル*

ページのURL*

コンテンツの説明*

Georgia 段落 B I

コンテンツの種類

- 動画
- 冊子
- その他

学習対象者*

- がん体験者・家族
- 市民（誰でも）

メインコード1*

選択

コードを選択するとコードの説明が表示されます

メインコード2

選択

メインとなるコードがもう一つある場合、選択してください。

サブコード

- 参画-1 興味

- 参画-2 参画チャレンジと意見交換
- がん-1 腫瘍学
- がん-2 社会医学
- 研究-1 なぜ研究が必要なのか
- 研究-2 アウトラインと計画
- 研究-3 研究方法とデザイン
- 研究-4 データ管理と公表
- 統計-1 統計用語
- EB-1 科学的根拠（EBM）とガイドライン
- EB-2 情報リテラシー
- EL-1 がん医療の倫理
- EL-2 がん医療の関連法規・制度

- EL-2 がん医療の関連法規・制度
- メインとなるコードのほか、関連するコードがある場合、選択してください。

紹介画像の登録

画像をアップロード

記事の上部に表示されます（推奨画像サイズ：横幅770px、縦幅440px）

申請する

研修会一覧



種別

研修会

カリキュラム・コードで検索

---未指定---

参画-1_興味

参画-2_参画チャレンジと意見交換

検索

2023.09.20

第28回日本緩和医療学会学術大会PALランチオン
セミナー1「患者・市民参画模擬的体験にチャ...

研修会登録はこちら

画像なし

③ 研究班について



私たちのプロジェクトは、令和4年度がん対策推進総合研究事業（一次公募）に選定された「がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究」という3年計画の開発研究です。

研究者一覧

(所属は令和4年4月時点)

研究代表者：

有賀 悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座）

研究分担者：

江口 英利（大阪大学大学院医学系研究科・消化器外科学1）

勝俣 範之（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科）

三森 功士（九州大学病院）

大滝 純司（東京医科大学医学教育学分野）

渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科）

片山 佳代子（群馬大学情報学部）

片野田 耕太（国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所）

桜井 なおみ（がんセンター・ソリューションズ株式会社）

研究協力者：

樋口麻衣子（富山AYA世代がん患者会Colors）

眞島 喜幸（パンキャンジャパン）

佐々木 治一郎（北里大学医学部附属新世紀医療開発センター）

西森 久和（岡山大学病院血液・腫瘍内科）

山口 拓洋（東北大学大学院医学統計学分野）

カリキュラムを例えば、A、B、C・・・と表現するならば、次のようなイメージで受講を修了することができるようになります。

患者・市民参画教育カリキュラム・コードの活用例

次の目標を立てる

CDEFの中でもFがまだなので受けたい

ABをもう少し受けてみよう

浅く広く受けたので研究に参画してみたい

Bは受けていないけれど、動画の基礎研修は自己学習したので、研究に参画してみよう

研修したコード

ABCD(一部) E

ABCDEF

ABCDEF

ACDFE

受講者

研修企画者

***カリキュラムからコードを選択し、患者支援プログラムを立案。本サイトに登録。受講者募集時に選択した単位を明示する。

臨床腫瘍学会
PAP
選択コード***:
A-2 B-1 C-2
D1 (部分)

癌治療学会PAL
選択コード:
A-1,2 B-2 C-2,4
E-1,2

癌学会SSP
選択コード:
C-1*4 D-1 F-1,2

他の団体*
選択コード:
A-1,2 D-1 E-1

* 学術団体、医療機関、患者団体、国・都道府県企業等

カリキュラム・コード

(内容は、カリキュラムのページで確認できます)

A (参画)	B (がん)	C (研究)	D (統計)	E (EB)	F (EL)
•A-1 •A-2	•B-1 •B-2	•c-1~4	•D-1	•E-1 •E-2	•F-1 •F-2

対面研修を受ける前に、基礎研修プログラム (Web-ラーニング、用語集)を自己学習できるようWebサイトに設置する。

研修企画者は、カリキュラム・コードを選択し、市民向け研修会を開催します。企画時に他の研修のコード使用状況を確認でき、重ならないように、またはあえて重ねたプログラムを構成することが可能になります。

またはあえて重ねたプログラムを構成することが可能になります。
受講者は、受講した研修会のカリキュラム・コードを自己管理することで、まだ学んでいないものはどれか、すでに受講したコードを強化したいといった次の目標を立てることができるようになります。
全カリキュラム修了ではなく、自己管理選択型の研修のため、自分に合った受講ができます。

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究班 (22EA1001)

今、カリキュラム案を作成し、アンケート調査などを実施し、改定を繰り返し、最終的に実効性があるものを作り上げる作業をしています。

この研修には二つあります。

・基礎研修プログラム：

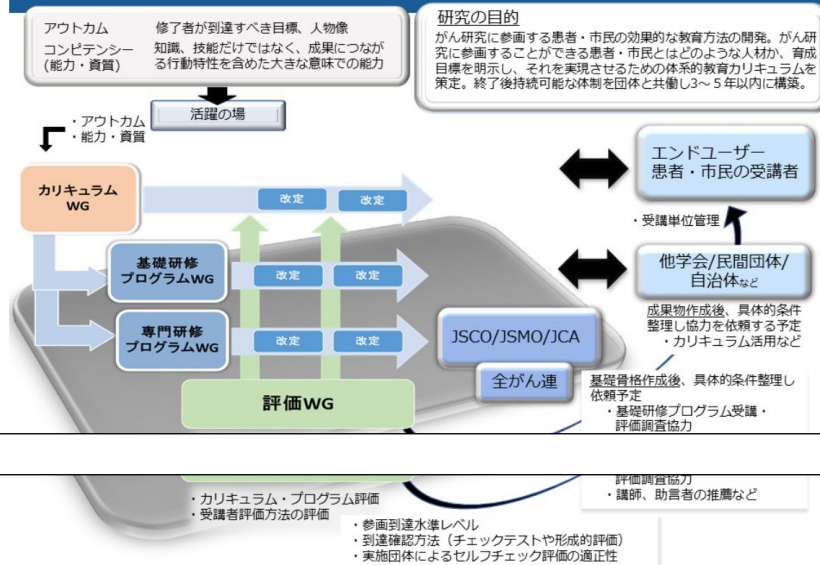
用語集、Webラーニング (繰り返し自己学習ができる)

・専門研修プログラム：

日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会の患者支援プログラムに協力頂き、カリキュラムを使ったプロ

ラムを実施し、カリキュラムに漏れた項目がないか、難易度は適切かなど検証していきます。

アウトカムとコンピテンシーを踏まえた本研究の目的と戦略



JSCO: 日本癌治療学会 JCA: 日本癌学会 JSMO: 日本臨床腫瘍学会 全がん連: 全国がん患者団体連合会
がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究班 (22EA1001)

この開発研究によって患者・市民参画教育カリキュラムを策定すると期待されることには、次のようなことがあります。

1. 患者・市民らが、受講コード管理によって自己学習目標を立てながら、体系的に研修を受けることができ、がん研究に立案段階から参画できる能力 (コンピテンシー) を修得することができる。
2. 教育カリキュラムを策定することで、多くの患者・市民参画の研修を実施する団体 (学会など) において、どのような研修プログラムを設定すれば患者・市民にとって良い効果をもたらすか、指標になる。
3. 教育カリキュラムの到達するレベルと獲得する能力 (コンピテンシー) を評価することにより、患者・市民に対するがん研究参画のための教育内容、効果的な方法を明らかにすることができる。
4. 研究に立案段階から参画できる患者・市民が増えることで、がん研究者がリクルートしやすくなる。

5. 模擬トレーニングなどのプログラムにより患者・市民はより実践的な能力を得ることが期待され、がん研究者との円滑な共働関係を形成することができる。
6. がん研究に患者・市民の声が反映されることで、患者視点のアウトカムの提案や患者のリクルートの適正化などが可能となり、広く医療の質や社会の福祉の向上に寄与する。

皆さんと共に、患者・市民参画を学ぶ環境を作っていきたいと思います。

どうぞ、仲間になってください。

そして、本サイトを活用してってください。

市民、患者の目線を大切に日本のがん医療を応援していきましょう。

お問い合わせはこちら

氏名

メールアドレス

件名

メッセージ本文 (任意)

送信

④ 受講者向け一覧

受講者向けコンテンツ一覧

1. 手引き（受講者向け）

2. カリキュラムの紹介

3. Webラーニング

4. 用語集

5. 研修会

6. 外部学習コンテンツ

⑤ 研究企画者はこちら



1. 手引き（研修企画者向け）
2. カリキュラムの紹介
3. 研修会一覧
4. 研修会登録
5. 開催報告

用語集 Web 画面

がん研究における用語集 Q



がん研究における用語集

市民が、がん研究に参画するために必要と思われるカリキュラムに沿った用語が収録されています。
 用語をクリックすると解説ページが表示されます。検索欄から直接入力することで部分検索も可能です。
 ※右上の「虫眼鏡」から検索してください。

※スマートフォンから利用する場合は、「全体」→「スマホ用」もご利用ください。

[「がん研究 患者・市民参画マナビの広場」のサイトはこちらから](#)

目 全体 ↓

名前	読み方	解説
IRB (Institutional Review Board) 研究倫理審査委員会	あいあーるびー	臨床試験や治験が行われる施設に設置が義務付けられている審査機関で、臨床試験や治験の倫理性、安全を審査する委員会です
ITT (Intention to treat) 解析	あいていーていーかいせき	臨床試験において、ランダム化後に何が起ころても、割り付けられた通りの群として解析する方針のこと
アウトカム	あうとかむ	治療や予防などの医学的介入から得られるすべての結末のことです。臨床研究においては、介入効果に項目をアウトカムといいます。

TMB (Tumor Mutational Burden = 遺伝子変異量)	転写因子	胸腔鏡下手術	インフォームドアセント
TME (Tumor Microenvironment = 腫瘍微小環境)	ドライバー遺伝子変異	胸水	インフォームドコンセント (説明と同意)
アポトーシス	HER2	False Positive = 偽陽性	嚥下障害
EGFR	バイオマーカー	IMRT (Intensity-Modulated Radiation Therapy = 強度変調放射線治療)	オンコロジー
EBウイルス (エプスタインバールウイルス)	BRCA	局所再発	介護保険法
異形成	B細胞	局所療法	化学物質
異型度	PD-L1	AUC (Area Under the Curve = 曲線下面積)	患者申出療養制度
遺伝子検査	PD-1	血管造影	造血幹細胞移植
ウイルス	BRAF	血行性転移	ドラッグデリバリーシステム (DDS)
HTLV-1 (Human T-cell Leukemia Virus Type1) (ヒトT細胞白血病ウイルス1型)	フェロトーシス	原著	ネクロシス
HPV (Human Papillomavirus) (ヒトパピローマウイルス)	分子標的薬	原発巣	PICO,PECO
NK細胞 (ナチュラル・キラー細胞)	扁平上皮癌	抗がん剤耐性	TNM分類
エピゲノム	MSI (Microsatellite Instability = マイクロサテライト不安定性)	光線力学療法	アピアランスケア
Organoid (オルガノイド)	マイクロサテライト不安定性	骨髄抑制	EBM (evidence based medicine 科学的根拠に基づく医療)
がん遺伝子	ミスマッチ修復機構	5年相対生存率	遺伝カウンセリング (Genetic Counseling)
がん遺伝子パネル検査 (Cancer Gene Profiling Test (がんゲノムプロファイル検査))	免疫応答	根治手術	遺伝性腫瘍 (遺伝性腫瘍症候群)
がん幹細胞	免疫寛容	コントロール群 (対照群)	Expert Panel (エキスパートパネル)
がん間質	免疫チェックポイント阻害薬	CDx(Companion Diagnostic=コンパニオン診断)	エビデンスレベル
がんゲノム医療 (プレジジョンメディシン)	モノクローナル抗体	再建手術	ガイドライン (診療ガイドライン)
がん細胞	融合遺伝子	再燃	EBA(evidence based advocacy = 科学的根拠に基づくアドボカシー)
患者腫瘍組織移植(PDX: Patient-derived xenografts)マウスモデル	リキッドバイオプシー	サイバーナイフ	がんゲノム医療拠点病院
がん代謝	リポジショニング薬	再発	がんゲノム医療中核拠点病院
がんの多様性	ワーブルグ効果	細胞診検査	がんゲノム医療連携病院
がん抑制遺伝子	MAPK (mitogen-activated protein kinase) (分裂促進因子活性化タンパク質キナーゼ)	査読	がん検診ガイドライン
基礎研究	P値	CRC (臨床研究コーディネーター: Clinical Research Coordinator)	がんサバイバー
キメラ抗原受容体 (CAR)	α 値 有意水準	CRB (認定臨床研究審査委員会: Certified Review Board)	がんサバイバーシップ研究
空間的転写産物解析	ITT (Intention to treat) 解析	支持療法	患者会
クローナリティ	因子分析	集学的治療	患者サロン
Ki67	オッズ、オッズ比	重複がん (多発がん)	がん専門相談員
KRAS	カテゴリ変数	重粒子線治療 (Heavy Ion Radiotherapy)	がん相談支援センター
血管新生阻害薬	カプランマイヤー法	術後補助療法	癌取扱い規約
血中循環腫瘍細胞(CTC)	カプランマイヤープロット (生存曲線)	術中迅速病理診断	再現性
ゲノム	帰無仮説	主要評価項目 (プライマリーエンドポイント)	サポートグループ
ケモカイン	クロスオーバー試験	症例報告	推奨の強弱
構造異型	欠損値	抄録	データクリーニング
抗体	研究デザイン	神経ブロック	データベース
好中球	検出力	進行がん	データベース構築
CDx(Companion Diagnostic=コンパニオン診断)	交絡	シンポジウム	データマイニング
サイトカイン	交絡因子	診療情報提供書 (紹介状)	データモニタリング

細胞遺伝学的寛解	誤差	生検	データリソース
細胞表面マーカー検査	最頻値	穿刺吸引細胞診	バイアス
次世代シーケンサー(NGS)	サンプルサイズ	先進医療	ピアサポーター
実装性	シェーマ	全身療法	ピアサポート
腫瘍随伴症状	実測生存率	OS (Overall Survival=全生存期間)	病期 (ステージ)
腫瘍微小環境 (TME)	死亡数	ORR (Overall Response Rate=全奏効率)	標準治療
ctDNA (循環腫瘍DNA)	死亡率	総説 (総説論文)	普遍性
バイオセーフティ	尺度	組織診検査	分化度
バイオセーフティレベル (BSL) 1~4	情報バイアス	第I相試験	マインズガイドラインライブラリ
バイオハザード	正規分布	第III相試験	臨床進行度
Biobank(バイオバンク)	生存率	第II相試験	臨床病期
廃棄物処理	絶対リスク	多施設共同研究	PET検査
認知行動療法	選択バイアス	治験	PRRT (Peptide Receptor Radionuclide Therapy=ペプチド受容体核医学内用療法)
ネオアジュバント (NAC)	相関係数	中間解析	医学物理士
播種	相関分析	治療効果判定	危険因子 (リスクファクター)
被験者	奏効率	追跡期間 (フォローアップ期間)	記述的研究
被験薬	相対生存率	DPCデータ	希少がん
病理検査	相対リスク (リスク比)	転移巣	financial toxicity (経済毒性)
非ランダム化比較試験	代表値	凍結療法	研究不正
非劣性試験	多変量解析	導入療法	研究倫理
腹腔鏡下手術	中央値	特定臨床研究	健康格差
副次的評価項目 (セカンダリーエンドポイント)	統計解析	内視鏡検査	健康 定義
腹水	統計的仮説検定	内分泌療法	検診
腹膜播種	統計学的有意差	難治がん	コホート研究
プラセボ	統計指標	地域がん診療病院	参加
プロトコール (研究計画書)	二重盲検法 (double blind test;DBT)	地域がん診療連携拠点病院	参画
併用療法	年齢調整率	地域包括支援センター	三次予防
BNCT (Boron Neutron Capture Therapy=ホウ素中性子捕捉療法)	HR (ハザード比)	チームアプローチ	質的研究 (インタビュー)
無増悪生存期間 (PFS)	比	チーム医療	社会医学研究
メトロノームの治療 (メトロノミック化学療法)	標準偏差	チームビルディング	縦断研究
休眠療法			
免疫関連有害事象	病勢コントロール率 (DCR) (病勢制御率)	知的財産権	症例対照 (ケースコントロール) 研究
免疫療法	フォレストプロット	著作権	生態学的研究
有害事象	分割表	デバイスラグ	精度管理
輸血療法	分布	特定領域がん診療連携拠点病院	セカンドオピニオン
癒着	平均値	匿名化	全国がん登録
陽子線治療(Proton Beam Therapy)	変数	都道府県がん診療連携拠点病院	後ろ向き研究 (レトロスペクティブスタディ)
陽性的中率	母集団	ドラックラグ	ADL (Activities of Daily Living) (日常生活動作)
用量制限毒性	メタアナリシス (メタ分析、メタ解析)	肉腫	疫学研究
ランダム化 (無作為化)	有意差	二次性発癌 (二次がん)	EMA (European Medicines Agency)
ランダム化比較試験 (RCT)	有病・有病率	二次予防	介入研究
利益相反 (COI : conflict of interest)	連続変数	二次利用	観察研究

罹患数	割合	日本人のためがん予防法	がん診療連携拠点病院
罹患率	PD (病勢進行)	ノンバーバルコミュニケーション	がん対策基本法
率	PR (部分奏効) Partial Response	反復	がん登録推進法 (がん登録等の推進に関する法律)
リニアック (直線加速器)	PRO (患者報告アウトカム)	批判的吟味	ICER (Incremental cost-effectiveness ratio=増分費用効果比)
Particle Beam Therapy (粒子線治療)	Robotic Assisted Surgery (ロボット手術)	病院機能評価認定病院	CEA (Cost Effectiveness Analysis = 費用効果分析)
良性腫瘍	RECIST	開かれた質問・閉じた質問	PPI (Patient and Public Involvement)
量的研究	RWD(Real World Data=リアルワールドデータ)	フォーカスグループインタビュー	医療倫理
臨床研究	IRB (Institutional Review Board) 研究倫理審査委員会	分析的研究	患者エンゲージメント
臨床試験	アウトカム	ヘルシンキ宣言	緩和ケア
臨床の有効性・有用性	悪性腫瘍	放射線	健康寿命
リンパ行性転移	Adaptive Design (アダプティブデザイン)	保険適応外	健康増進法
リンパ節郭清	FDA (Food and Drug Administration=アメリカ食品医薬品局)	保険適応内	健康保険法
累積死亡リスク	維持療法	ホスピス	限度額適用認定証
累積罹患リスク	イレウス (腸閉塞)	前向き研究	高額療養費制度
レジメン	MRI (Magnetic Resonance Imaging=磁気共鳴映像法)	未承認薬	公的医療保険制度
レター	MRリニアック	民間療法	硬膜外麻酔
CTCAE (Common Terminology Criteria for Adverse Events)	遠隔転移	薬害	個人情報保護法
上皮内癌	エンドポイント	薬事法	個別化検診 (と団体検診)
シングルセル解析	横断研究	薬機法	コンフリクト (意見の衝突)
浸潤	化学療法	要約	催奇形性
生殖細胞系列変異	拡大治験	予後	社会剥奪指数
cfDNA(cell free DNA)	画像診断	予防	出版倫理
全ゲノムシーケンス	がん悪液質	予防接種制度	腫瘍
体細胞変異	寛解	ライフステージ	腫瘍内科
多段階発がん	C-CAT (Center for Cancer Genomics and Advanced Therapeutics = がんゲノム情報管理センター)	リスクベネフィットバランス	腫瘍マーカー
T細胞	完全寛解 削除してください (勝俣)	臨床研究法	腫瘍
TGF ベータ	完全奏効 (完全寛解) (complete response)	ワークショップ	肖像権
TP53	False Negative = 偽陰性	アサーション	小児がん拠点病院
低侵襲性	キャンサーボード	アジュバント (ADC)	小児がん連携病院
転移	救済療法 (サルベージ療法)	医療安全	診療報酬



患者・市民参画を推進するための 研修会の企画について



研究班事務局：

厚労科研有賀班事務局

帝京大学医学部緩和医療学講座内

Email : ppi-edu@teikyo-u.ac.jp

〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1

電話：03-3964-1211（代）内線：33678または7732

Fax：03-3964-2016（直通）

研究課題

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する
教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究（令和4～6年度）

研究代表：有賀悦子（学校法人 帝京大学）

教育カリキュラム評価ワーキンググループ長：片山佳代子（国立大学法人 群馬大学）

ご担当者 様

拝啓

第4期がん対策推進基本計画において「患者・市民参画の推進」については、ロジックモデルのアウトプット指標に「厚生労働省科学研究を基に開催された研修会の開催回数」が示されております。この厚生労働省科学研究とは、令和4年度に採択され、現在進行中の研究班「がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究」（代表：帝京大学 有賀悦子）を指しています（以下、有賀班と称します）。

有賀班では、患者・市民の方が、がん研究に参画できるよう体系的に教育研修を受けられるようカリキュラムを開発し、それを広く一般に公開、併せて本教育カリキュラムを使って研修会を各団体あるいは各自治体等で開催できるよう支援し、本教育カリキュラムを使って開催された事例などをホームページで公開していきます。是非参考になさって下さい。

第4期がん対策推進基本計画を策定、実装されている各自治体のご担当者の方々に、まずは有賀班を知っていただき、研究班の教育カリキュラムを貴地域のがん対策にご活用いただきたく存じます。

敬具

有賀班ホームページ

がん研究
患者・市民参画 マナビの広場

<https://plaza.umin.ac.jp/ppi-ed/>

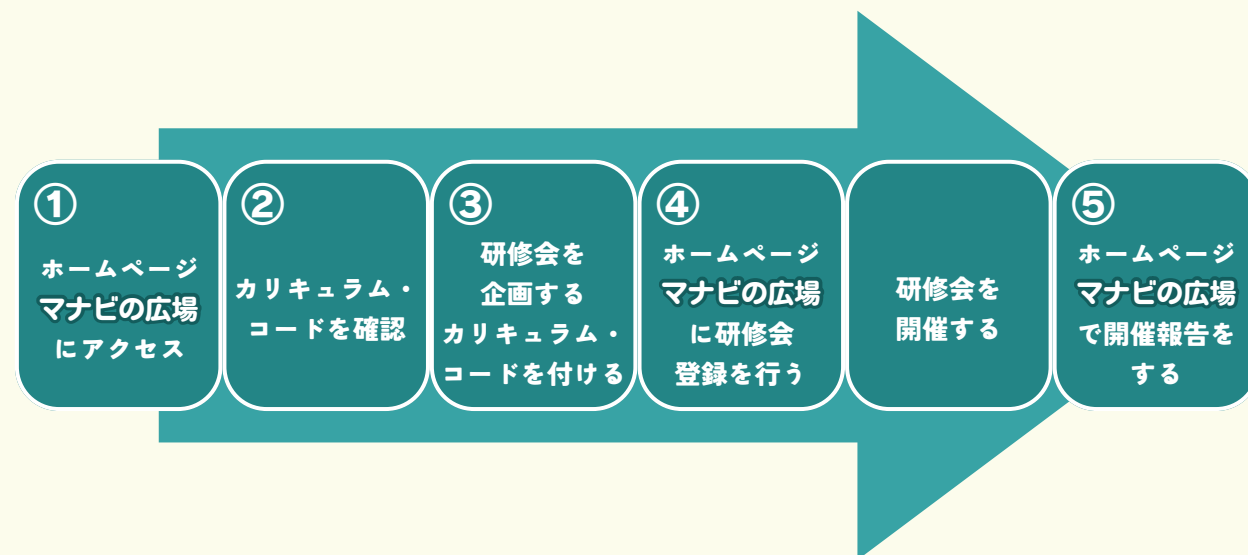
まずは一度、研究班ホームページをご覧ください。



「カリキュラムに基づいた患者・市民参画のための研修会開催手順」

カリキュラム・コードを活用した研修会を開催することは、患者・市民参画の啓発、普及の一助となります。ご協力をお願いいたします。

団体等個別情報は除き、研修会開催数や参加者数の総和は年次報告として公表していく予定です。



① ホームページ マナビの広場 にアクセス

研修企画者用コンテンツ一覧

- ②ここからカリキュラムコードを確認できます → カリキュラムの紹介
- ④登録フォームはこちらから → 研修会登録
- ⑤開催報告はこちらから → 開催報告

2024年夏、本研究班が主催する患者・市民参画の対面研修会を東京にて開催予定です。詳しくはホームページなどにてご案内する予定でおります。

②カリキュラム・コードを確認

令和4年 厚生労働省科学研究費がん対策推進総合研究

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究 (22EA1001)

モジュール				カリキュラム		
タイトル (pre-start)	目標	タイトル (start up)	目標	領域 (2語)	カリキュラム・コード	資質・能力 (コンピテンシー)
患者・市民参画 ことはじめ	"患者・市民参画"を初めて聞く市民に向けたモジュールです。 興味をもつきっかけ作りが目標です。 カリキュラムはどれを適応させても構いません。	患者・市民参画するには (患者・市民参画概論)	患者・市民参画に取り組んでみたいという思いを高め、入り口に立つことを目指します。 (さらに進んだ目標として、研究チームや会議体に参画し意見交換ができる)	参画	参画-1 興味	患者・市民参画のモチベーションを高める。
					参画-2 参画チャレンジと意見交換	患者・市民の参画にチャレンジし、建設的な意見交換ができる。
		がんを知ろう (腫瘍学・社会医学)	がんについて、自らのペースで知識を深めていきましょう。	がん	がん-1 腫瘍学	がん(腫瘍学)について、自らのペースで知識を深めていくことができる。
					がん-2 社会医学	がんに関する社会医学について、自らのペースで知識を深めていくことができる。
		がん研究ってどんなこと? (がん研究概論)	がん研究について、自分のペースで知識を深めていきましょう。	研究	研究-1 なぜ研究が必要なのか	なぜ研究が必要なのか? 研究という営みについて理解する。
					研究-2 アウトラインと計画	研究を遂行するための研究構造(アウトライン)を理解し、研究計画がどのように立案されるのかを理解する。
					研究-3 研究方法とデザイン	研究方法とデザインについて質問できる。
					研究-4 データ管理と公表	研究データ安全管理と研究成果の公表と活用について理解する。
医療統計に触れてみよう なぜ、必要? (医療統計・疫学)	身近な文章(ニュースや報告書)やがん研究論文で、医療統計や疫学が、どのように用いられているか体験してみましょう。	統計	統計-1 統計用語	医療統計の言葉に触れる体験をしよう。		
科学的根拠が社会で活用されるまで (科学的根拠と医療情報)	がん研究が、医療や社会の中の意思決定にどのように活用されているか学びます。	EB	EB-1 科学的根拠(EBM)とガイドライン	がん研究で得られた科学的根拠がガイドライン等を通してどのように意思決定に用いられるか知ろう。		
			EB-2 情報リテラシー	確かな情報を見分けよう。 情報リテラシーの重要性を知ろう。		
がん医療・研究に関わる人が守らなければいけないこと、知っておきたいこと (がん医療に関する倫理・法規・制度)	医療や研究に関わる人が守らなければいけない事柄として、倫理、利益相反、法規、制度について学びます。	EL	EL-1 がん医療の倫理	医療倫理・研究倫理、利益相反、個人情報保護について学ぶ。		
			EL-2 がん医療の関連法規・制度	その時代の最新のものを学ぶ。 がん対策基本法、薬機法、がん登録推進法、健康保険法(診療報酬、保険適応内外)、介護保険法、臨床研究法、倫理指針、健康増進法、労働安全衛生法、公的医療保険制度、高額医療費制度、患者申出医療制度等		

※選択してプログラムにつける

③ 研修会を企画する カリキュラム・コードを付ける

対面
研修会

2024年度 A県立病院 地域がん診療連携拠点病院 市民セミナー
「肺がんと信頼できる医療情報」

多くの市民の皆様の参加を病院一同お待ちしております。

2024年11月23日(土・祝) 13:00~15:00

開会の辞: 山田 太郎 病院長

特別講演① 13:05~13:35
『肺がんの診断と治療』 **カリキュラム・コード がん-1**
演者:呼吸器内科 田中 一郎 先生

事例紹介 13:35~13:50
『当院での治療の事例』
演者:化学療法室 中木 陽子 先生

特別講演② 13:50~14:10
『信頼できる医療情報の見分け方』 **カリキュラム・コード EB-2**
演者:腫瘍内科 木村 洋子 先生


特別講演③ 14:10~14:55
『患者さん向け肺がんガイドラインを読みましょう』
カリキュラム・コード EB-1, 2
演者:B大学附属病院 腫瘍内科 村井 二郎 先生

閉会の辞: 井口 庸子 副院長

● 当院を受診したことがなくても、どなたでも参加できます。
● 事前登録:11月20日まで。ファックスで受付中。事前登録とご質問は、連携室まで。Fax. 000-333-4444
● セミナーの最後に、アンケートにご協力をお願いします。

本セミナーは、厚生労働省科学研究で開発された患者・市民参画カリキュラムに基づいた研修会です(詳しく知りたい方はQRコードへ)

主催 A県立病院 後援 A県医師会



※コードが重なっても可 ※複数のコードを使用可

←QRコードを
必ずご掲載下さい
(研修会登録ページより
ダウンロードできます)

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

④ ホームページ マナビの広場 に研修会登録を行う

研修会登録

以下のフォームから開催予定の研修会を申請してください。

※申請いただいた研修会は内容を確認の上、疑義が生じた場合確認のためご連絡差し上げることがございます。
研修会の内容によっては掲載できない場合がございます。ご了承ください。

連絡窓口担当者

担当者メールアドレス*
※申請される方の氏名及び連絡先は申請内容の確認以外の目的で使用することはありません

開催団体*
(例) 第〇回 日本〇〇学会学術集会

団体種別*

⑤ ホームページ マナビの広場 から開催報告をする

研修会の開催結果の登録をお願いしています。

研修会登録時に本サイトからお送りした登録内容確認メール(がん研究に参画しよう!患者・市民参画マナビの広場〇〇@〇〇.co.jpから送付しています)をご確認いただき、登録時と変更があった箇所は変更内容を入力してください。

研修会名

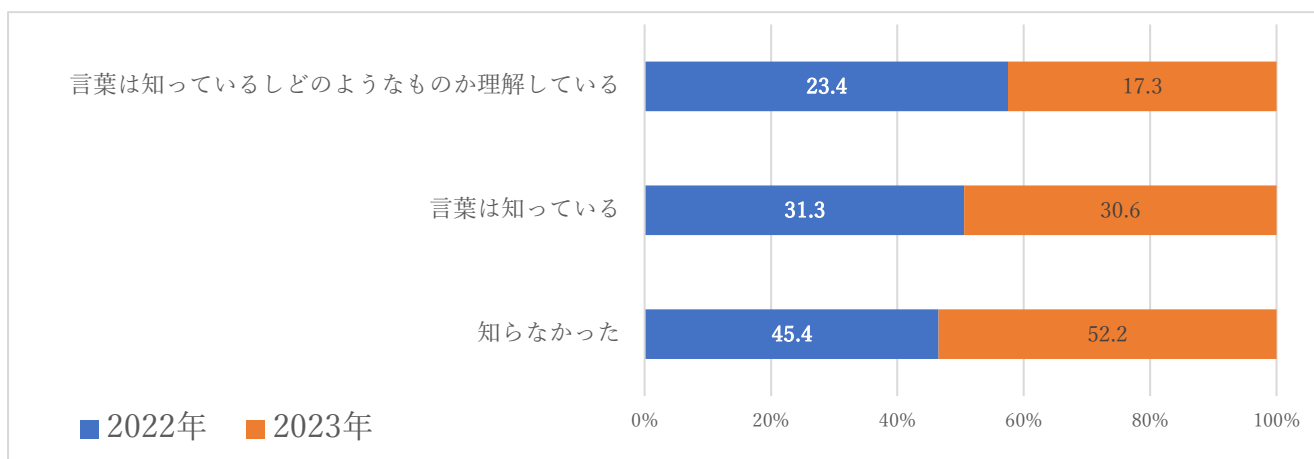
開催場所の都道府県*

企画者(主催団体)の都道府県
開催場所と異なる場合のみ

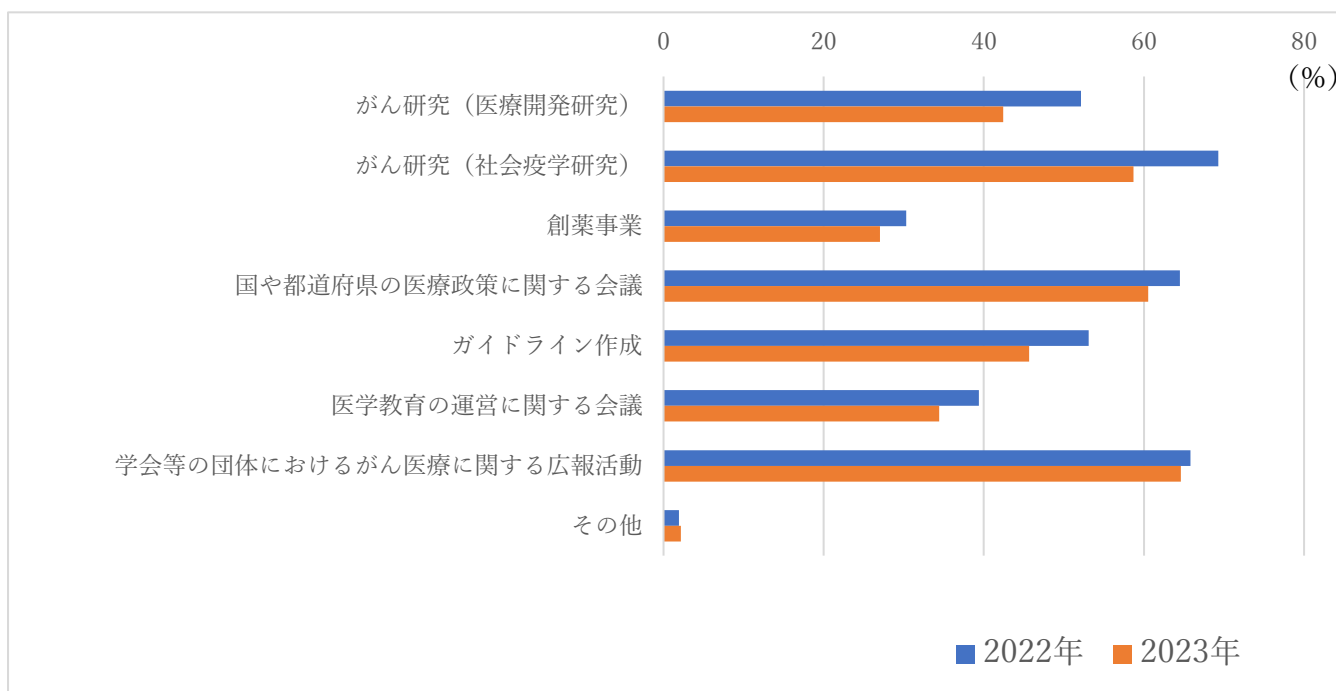
参加者数(人)*

日本癌治療学会患者・市民参画(PPI)に関する会員の意識調査結果(2022年、2023年)

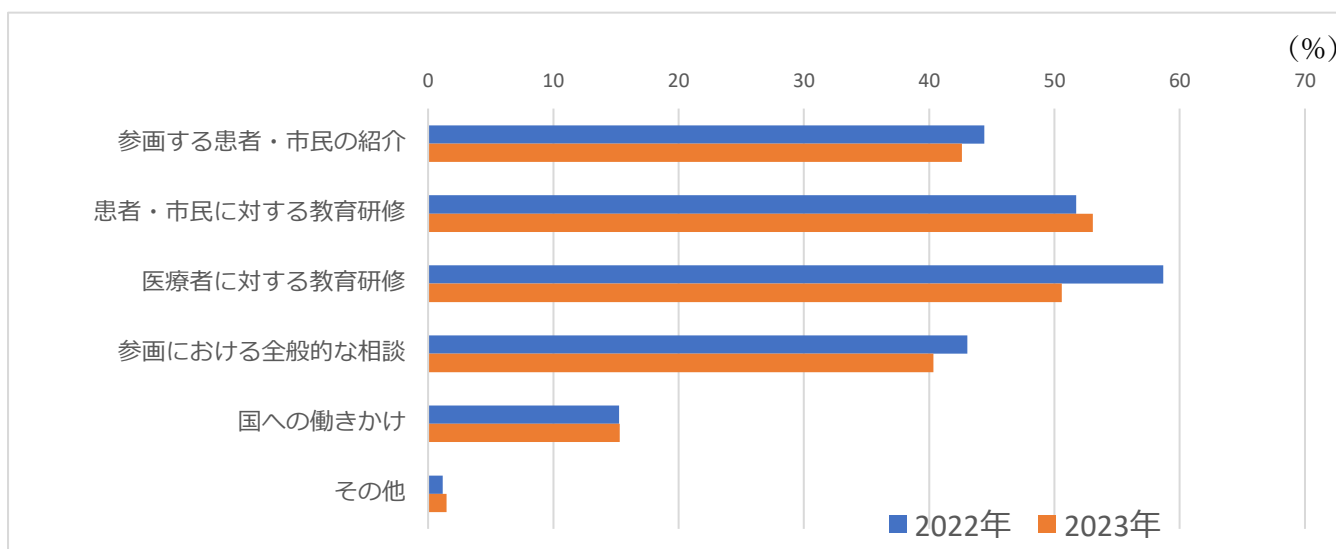
問:患者・市民参画について知っていましたか?



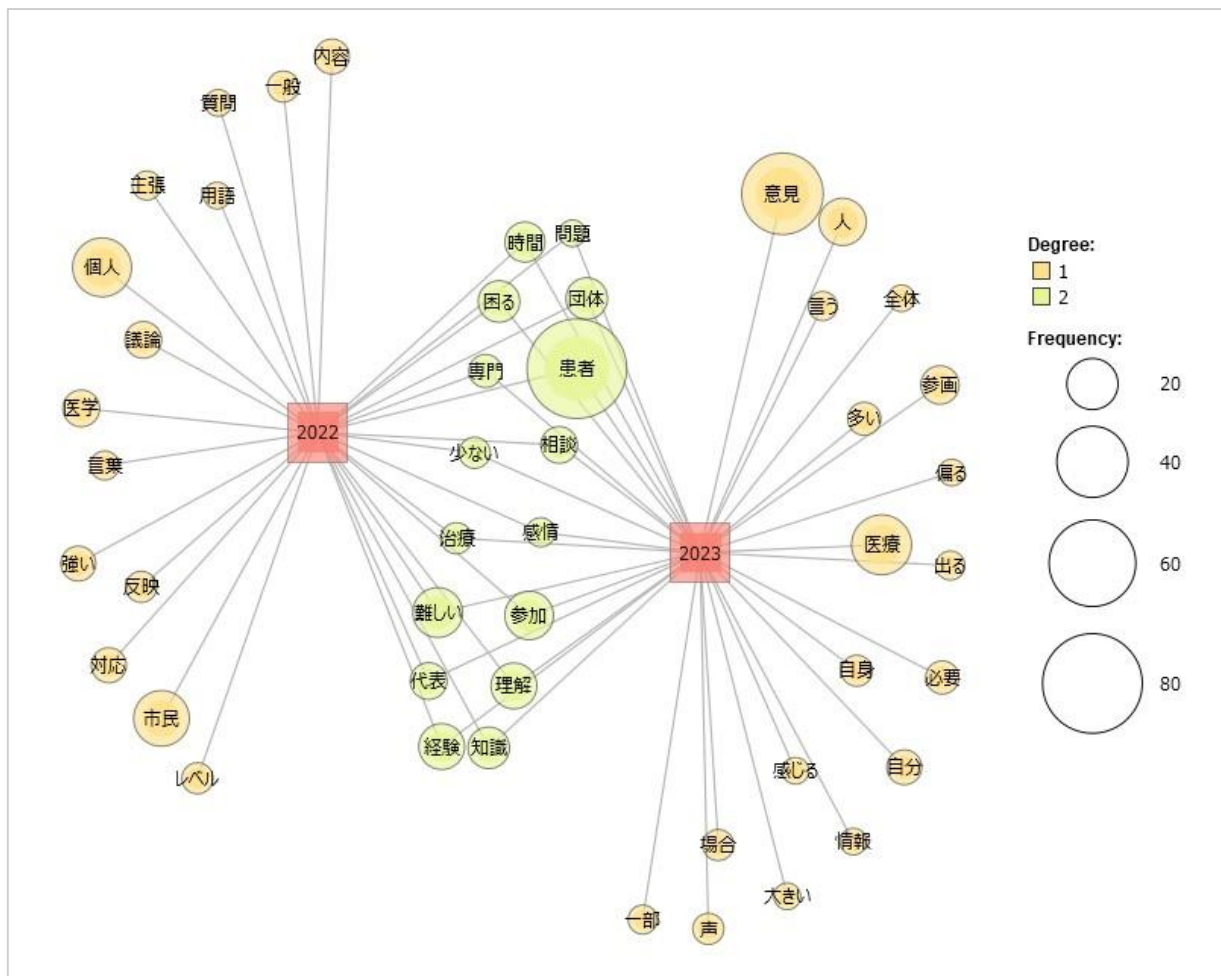
問:患者・市民参画はがん医療において、どのような場面に活用されるとよいと思いますか



問:患者・市民参画について、学会からどのような支援があるとよいと思うか



アンケート調査の自由記述を可視化



令和6年4月16日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 帝京大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 冲永 佳史

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部緩和医療学講座・主任教授
(氏名・フリガナ) 有賀悦子・アルガエツコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6年 4月 30日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立大学法人大阪大学

所属研究機関長 職 名 大学院医学系研究科長

氏 名 熊ノ郷 淳

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学系研究科・教授
(氏名・フリガナ) 江口 英利・エグチ ヒデトシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

大阪大学医学系研究科では、厚生労働科学研究費補助金に係る承諾書等について以下のとおり取扱っております。

I. 厚生労働科学研究費補助金の研究実施承諾書・倫理審査状況及び利益相反等報告書について

本学では、厚生労働科学研究費補助事業の研究実施の承諾については、従来より研究者が所属する各部局長より行なっております。

これは「大阪大学教授会通則」第4条に基づき、各部局の教授会が各部局の教育・研究に関する重要事項の決定権を有しているため、教授会の責任者である部局長が研究実施に対する承諾権限を有しているとみなしているためです。

そのため、大阪大学医学系研究科に所属している研究者の研究実施の承諾は医学系研究科長より行っております。

同様に、倫理審査状況及び利益相反等報告書についても医学系研究科長名にて発行しております。

II. 厚生労働科学研究費補助金の管理及び経理事務委任に対する承諾書について

本学では、「厚生労働科学研究費補助金における事務委任について」（平成13年7月5日厚科第332号厚生科学課長決定（平成29年3月31日 最新版））に基づき、補助金の管理及び経理事務について、所属機関の長の責のもと、その機関において行うこととしております。

なお当該事務について、「国立大学法人大阪大学における公的研究費の取扱いに関する規程」第6条に基づき、実質的な責任と権限を持つ者として、医学系研究科長への委任及び同研究科長よりの承諾を行っております。

III. 厚生労働科学研究費補助金の受領委任に関して

本学では、「厚生労働科学研究費補助金における事務委任を行った場合の国庫補助金の受領の委任について」（平成13年10月25日厚科第472号厚生科学課長決定（令和3年1月21日 最新版））に基づき、「国立大学法人大阪大学研究費補助金取扱要項」第6条により、補助金の受領について、所属機関の長（学長）への委任及び同長よりの承諾を行っております。

[参考] 大阪大学規程集 https://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_taikei/r_taikei_01_05.html

大阪大学教授会通則

（審議事項等）

第4条 教授会は、総長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり教育研究に関する専門的な観点から意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること。
- (2) 学位の授与に関すること。
- (3) 教育課程の編成等に関すること。
- (4) 学生の除籍及び懲戒に関すること。
- (5) 教員の人事に関すること。
- (6) 組織の長の選考及び解任に関すること。
- (7) 称号の付与に関すること。
- (8) 教育研究組織の再編に関すること。
- (9) 共同研究講座等の設置に関すること。
- (10) 諸規程の制定及び改廃に関すること。
- (11) 概算要求に関すること。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、総長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「総長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び総長等の求めに応じ、教育研究に関する専門的な観点から意見を述べることができる。

国立大学法人大阪大学における公的研究費の取扱いに関する規程 抜粋

（部局等管理責任者）

第6条 部局等（本部事務機構を含む。以下この条において同じ。）における公的研究費の運営及び管理について実質的な責任と権限を持つ者として部局等管理責任者を置き、当該部局等の長（本部事務機構にあっては、財務を担当する理事）をもって充てる。

国立大学法人大阪大学研究費補助金取扱要項 抜粋

（研究費補助金の経理事務の委任）

第6条 研究代表者等は、研究費補助金の交付内定（継続分を含む。）を受け、研究費を受領する場合は、学長にその受領を委任したものとし、経理に関する事務を所属する部局長に委任したものとみなす。

ただし、受領委任について配分機関から別途定めがある場合は、その定めにより取り扱うものとする。

令和 6 年 4 月 26 日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿~~
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 日本医科大学武蔵小杉病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 谷合 信彦

次の職員の令和 5 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業

2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 腫瘍内科 教授
(氏名・フリガナ) 勝俣範之 (カツマタノリュキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6年 4月 16日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立大学法人九州大学

所属研究機関長 職 名 総長

氏 名 石橋 達朗

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 九州大学病院別府病院外科・教授
(氏名・フリガナ) 三森 功士・ミモリ コオシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 東京医科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 林 由起子

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学教育学分野・兼任教授
(氏名・フリガナ) 大滝 純司 (オオタキ ジュンジ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年4月16日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 帝京大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 冲永 佳史

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部内科学講座(腫瘍内科)・教授
(氏名・フリガナ) 渡邊清高・ワタナベキヨタカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人群馬大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 石崎 泰樹

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 情報学部・准教授
(氏名・フリガナ) 片山佳代子・カタヤマカヨコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項) 神奈川県立がんセンターの倫理審査にて審査は必須ではないと判断された。

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 中釜 斉

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) データサイエンス研究部・部長
(氏名・フリガナ) 片野田耕太・カタノダコウタ
4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6年 4月 2日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 キャンサー・ソリューションズ株式会社

所属研究機関長 職 名 代表取締役社長

氏 名 桜井 なおみ

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業

2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 代表取締役社長
(氏名・フリガナ) 桜井 なおみ ・ サクライ ナオミ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。